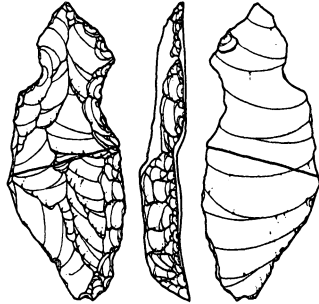


# 佐倉市南志津地区 埋蔵文化財発掘調査報告書 2

— 御塚山遺跡第 7 地点の調査 —



1993

住宅・都市整備公団 首都圏都市開発本部  
財団法人 千葉県文化財センター

# 佐倉市南志津地区 埋蔵文化財発掘調査報告書 2

おつかやま  
—御塚山遺跡第7地点の調査—

1993

住宅・都市整備公団 首都圏都市開発本部  
財団法人 千葉県文化財センター

## 序 文

近年、千葉市及び千葉市に隣接する各都市は、都市機能の整備が急速に進んできており、なかでも佐倉市は、東京都心と成田空港を結ぶ大動脈であるＪＲ総武本線、成田線、京成線などの鉄道や、東関東自動車道などが通り、各種施設の拡充や大規模宅地開発が市内各地で実施されております。住宅・都市整備公団でも、このような趨勢に対応すべく、京成線志津駅の南西側に位置する南志津地区に大規模な土地区画整理事業を計画いたしました。

また一方、佐倉市は印旛沼の南岸に位置し、その恵まれた自然環境のもとで古くから栄えた地として広く知られたところでもあります。とりわけ江戸時代の佐倉城とその城下町は「歴史の町佐倉」を象徴するものであり、国立歴史民俗博物館を擁する佐倉城址公園として整備され、市民の憩いの場となっております。さらに、市内には数万年を数える昔から連続と続く人々の生活の跡が残されており、著名な遺跡だけでも縄文時代の吉見台遺跡や弥生時代の大崎台遺跡など枚挙に暇がありません。南志津地区にも大林遺跡などの遺跡の存在が知られていたため、千葉県教育委員会では地区内に所在する埋蔵文化財の取扱いについて、関係諸機関との慎重な協議を重ねてまいりました。その結果、遺跡の一部を公園、緑地に取り込んで現状保存を図る一方、それが困難な部分に関しては、やむなく記録保存の措置を講ずることになりました。

発掘調査は財団法人千葉県文化財センターが実施することになり、昭和57年度から昭和62年度までに大半の調査を終了し、その成果は昭和63年度に調査報告書の第1冊として刊行されております。最後に残されていた御塚山遺跡の一部については、平成3年度に調査を行い、前回は報告した部分と同じく、先土器時代の重要な石器群が出土しております。このたび、その整理作業が終了し、南志津地区発掘調査報告書の第2冊として刊行するのはこびになりました。本書が学術資料として寄与することはもとより、地域の歴史を知る資料として、文化財の保護と普及のために広く活用されることを願ってやみません。

終わりに、発掘調査から報告書の刊行までさまざまな御指導をいただいた千葉県教育庁生涯学習部文化課をはじめ、住宅・都市整備公団、地元関係諸機関各位に深くお礼申し上げますとともに、発掘調査、整理作業に協力された調査補助員の皆様にも心から感謝の意を表します。

平成5年3月

財団法人 千葉県文化財センター

理事長 奥 山 浩

## 凡 例

1. 本書は千葉県佐倉市井野町44-2他に所在する御塚山遺跡の発掘調査報告書である。遺跡コードは212-013である。
2. この調査は、住宅・都市整備公団南志津地区土地区画整理事業に伴う事前調査として、千葉県教育委員会の指導のもとに、住宅・都市整備公団との委託契約に基づいて、財団法人千葉県文化財センターが実施した。
3. 現地の調査は、確認、本調査を含めて平成3年11月1日から12月25日まで実施し、主任技師横山仁が担当した。
4. 整理作業は平成4年4月1日から着手し、平成4年7月31日に終了した。作業は主任技師渡辺修一が担当した。
5. 本書は、調査部長天野努、調査部長補佐佐久間豊、班長上野純司の助言のもとに渡辺修一が執筆、編集を行った。
6. 本書の作成にあたっては、千葉県教育庁文化課、住宅・都市整備公団の関係各位をはじめ多くの方々のご指導、ご協力を得た。記して深謝の意を表する。

## 用 例

1. 本書で使用した地形図の出典は次のとおりである。  
第1図：国土地理院発行1/25,000地形図『佐倉』（N I-54-19-14-2）  
上記以外：住宅・都市整備公団首都圏都市開発本部作成 南志津地区現況図
2. 遺物分布図における土層断面に使用したスクリーントーンは、第4図の基本土層図に準拠したものである。
3. 本文中における石器器種の呼称のうち、R剥片とは、目的的な調整の可能性が高い二次剥離が認められる剥片で、かつナイフ形石器や削器のような石器に分類することが躊躇されるものをいう。
4. 計測表中の使用痕欄については、刃こぼれ状の微細な二次剥離痕が観察されたものすべてに+を付した。したがって厳密な意味での使用痕の有無とは合致しないこともありうる。  
また欠損欄については、二次的な折れ面を持つもののうち、調整剥離との新旧関係が明らかであるか、定型的な石器などで使用時の欠損の可能性が高いと判断されたものに欠損+、他についてはすべて折れ面欄に+を付した。

# 本文目次

I	序	章	
1	南志津地区遺跡群と御塚山遺跡第7地点の調査		1
2	調査の方法		5
II	素	描	6
III	第1文化層		
1	梗概		8
2	第14ブロック		9
3	小結		9
IV	第2文化層		
1	梗概		12
2	第15ブロック		12
3	第16ブロック		15
4	第17ブロック		23
5	第18ブロック		25
6	小結		28
V	収	束	37

## 挿 図 目 次

第 1 図	遺跡の位置	1
第 2 図	南志津地区全体図	2
第 3 図	御塚山遺跡各調査地点とブロック	4
第 4 図	第 7 地点全体図と基本土層	6
第 5 図	縄文時代の石器	7
第 6 図	第14ブロック遺物分布	8
第 7 図	第14ブロック出土遺物	10
第 8 図	第15ブロック遺物分布	13
第 9 図	第15ブロック出土遺物	14
第10図	第16ブロック遺物分布	折込
第11図	第16ブロック母岩別分布	16
第12図	第16ブロック出土遺物 1	17
第13図	第16ブロック出土遺物 2	19
第14図	第16ブロック出土遺物 3	20
第15図	第16ブロック出土遺物 4	21
第16図	第17ブロック遺物分布	22
第17図	第17ブロック母岩別分布	23
第18図	第17ブロック出土遺物	24
第19図	第18ブロック遺物分布	26
第20図	第18ブロック出土遺物	27

## 表 目 次

第 1 表	第14ブロック出土遺物計測表	11
第 2 表	第14ブロック出土遺物組成表	11
第 3 表	第15ブロック出土遺物計測表	29
第 4 表	第15ブロック出土遺物組成表	29
第 5 表	第16ブロック出土遺物計測表 1	30
第 6 表	第16ブロック出土遺物計測表 2	31
第 7 表	第16ブロック出土遺物計測表 3	32
第 8 表	第16ブロック出土遺物組成表 1	33
第 9 表	第16ブロック出土遺物組成表 2	34
第10表	第17ブロック出土遺物計測表	34
第11表	第17ブロック出土遺物組成表	36
第12表	第18ブロック出土遺物計測表	35
第13表	第18ブロック出土遺物組成表	36

## 図 版 目 次

図版 1	1 第14ブロック	図版 3	第16ブロック出土遺物 2
	2 第15・16・17ブロック	図版 4	第14・15・17・18ブロック出土遺物 1
	3 第18ブロック	図版 5	第14・15・17・18ブロック出土遺物 2
図版 2	第16ブロック出土遺物 1		

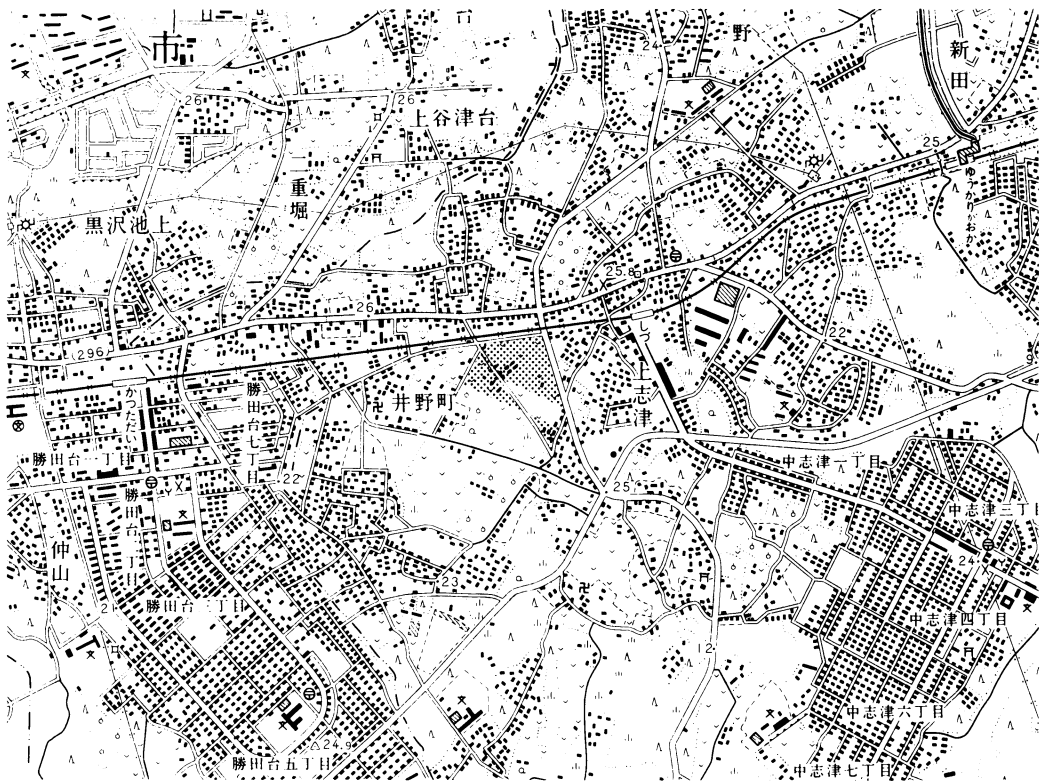
# I 序 章

## 1 南志津地区遺跡群と御塚山遺跡第7地点の調査

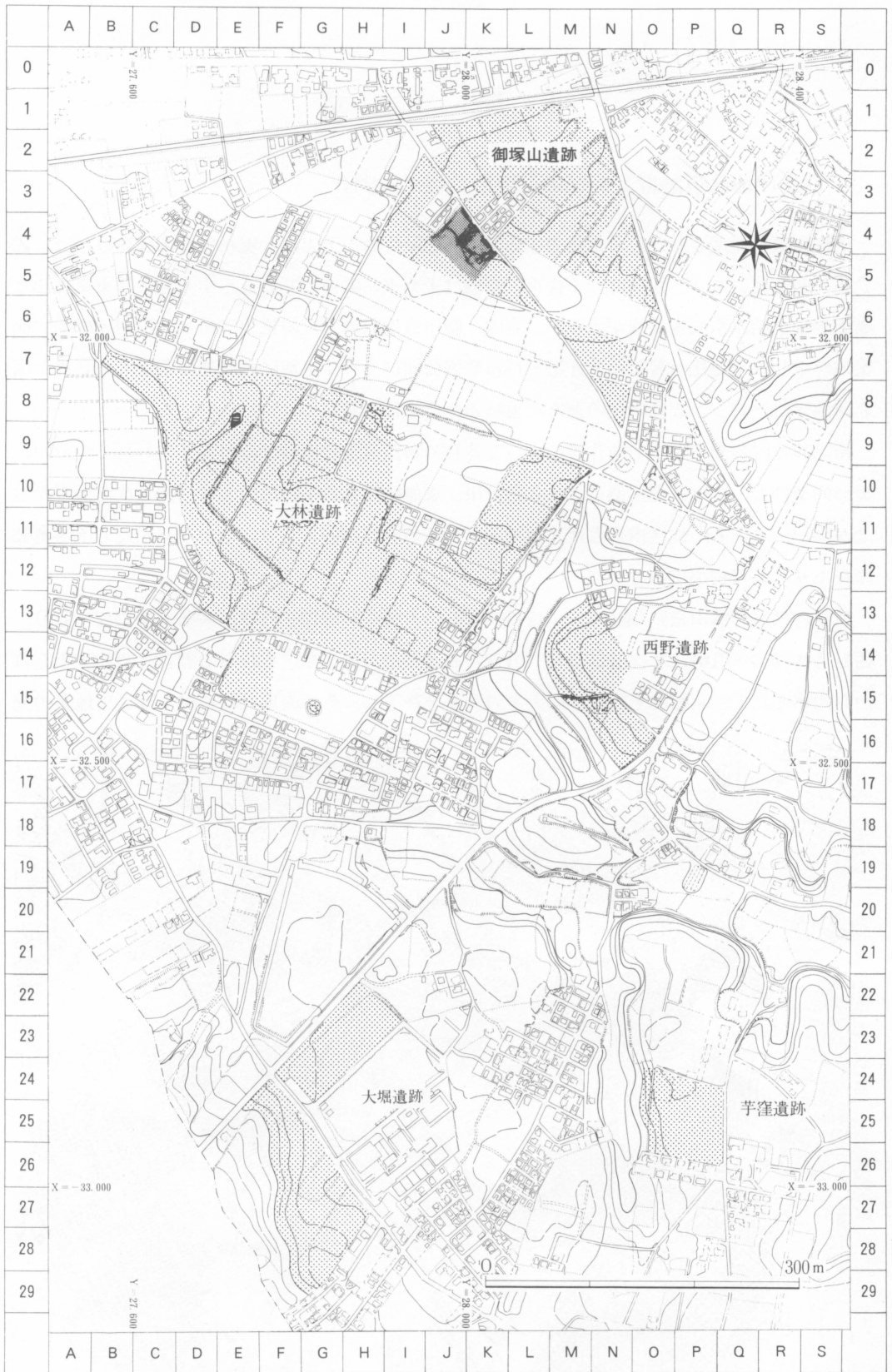
御塚山遺跡が所在した佐倉市南志津地区（旧地籍佐倉市上志津、現在佐倉市井野町）は、佐倉市の北西部にあり、西側は八千代市、南側は千葉市に隣接している。すぐ北には東京都心と成田空港を結ぶ京成電鉄線が走るが、志津、勝田台両駅は至近の位置にあり、周囲は駅前の商業地を中心に宅地化が著しい。住宅・都市整備公団によって土地区画整理事業が計画された南志津地区はそのような都市化の進んだ地域のただ中にある。

南志津地区の周辺は、宅地化等によって昔日の自然環境の面影はほとんど失われているが、地形的条件としては、南西側に流れる勝田川、東側に流れる手繰川によって挟まれた低平な台地が広がっている。地区内の台地には両河川からの支谷が嵌入しているが、いずれもその奥部にあたり、谷は狭小である。

地区内には御塚山遺跡（遺跡コード212-013）、大林遺跡（212-014）、大堀遺跡（212-015）、西野遺跡（212-016）、芋窪遺跡（212-017）の5遺跡が所在した。それらの調査は昭和57年5月から開始されて、昭和62年度までに大半の調査を終了し、その成果は昭和63年度に当地区の発



第1図 遺跡の位置 (1/25,000 『佐倉』)



第2図 南志津地区全体図 (1/7,500)



掘調査報告書の第1冊として刊行された。<sup>(1)</sup> 各遺跡の概要は以下のとおりである。

**御塚山遺跡** 大きな起伏のない地形に立地しているが、北西から埋没谷が入り込んでおり、検出された遺構、遺物はその周縁に並ぶ傾向が顕著である。縄文時代の陥穴状土坑3基と少量の縄文土器などの他はほとんどが先土器時代の遺構、遺物で占められる。先土器時代の遺物集中は3枚の文化層から計13か所検出されている。とくに第I文化層が充実し、小型石槍を指標とする石器群とナイフ形石器を指標とする石器群がフィードバックループを介して連環する構造が報告者である田村隆によって指摘されており、興味深い。また第2文化層第11ブロックでは炉址を伴う炭化物片集中が検出された。

**大林遺跡** 西側は勝田川の支谷、東側は手繰川の支谷に面する。先土器時代の重層的な大遺跡である。2枚に細分された第II文化層を含めて8枚の文化層から42か所の遺物集中が検出されている。最上位の第I文化層では野岳・休場型細石刃石器群が、第III文化層では石刃ナイフを特徴的に持つ石器群が、IX層上部の第VI文化層では45m四方という広大な第41ブロックが検出されて多面性を持った楔形石器の生産工程が明らかになり、第VII文化層ではX層上部から佐倉市向山谷津遺跡X層に対比される重要な石器群が出土するなど豊富な成果があった。また縄文時代では夏島期の大規模な遺物包含層が調査されて重要な知見が得られ、陥穴状土坑もまとめて調査されている。

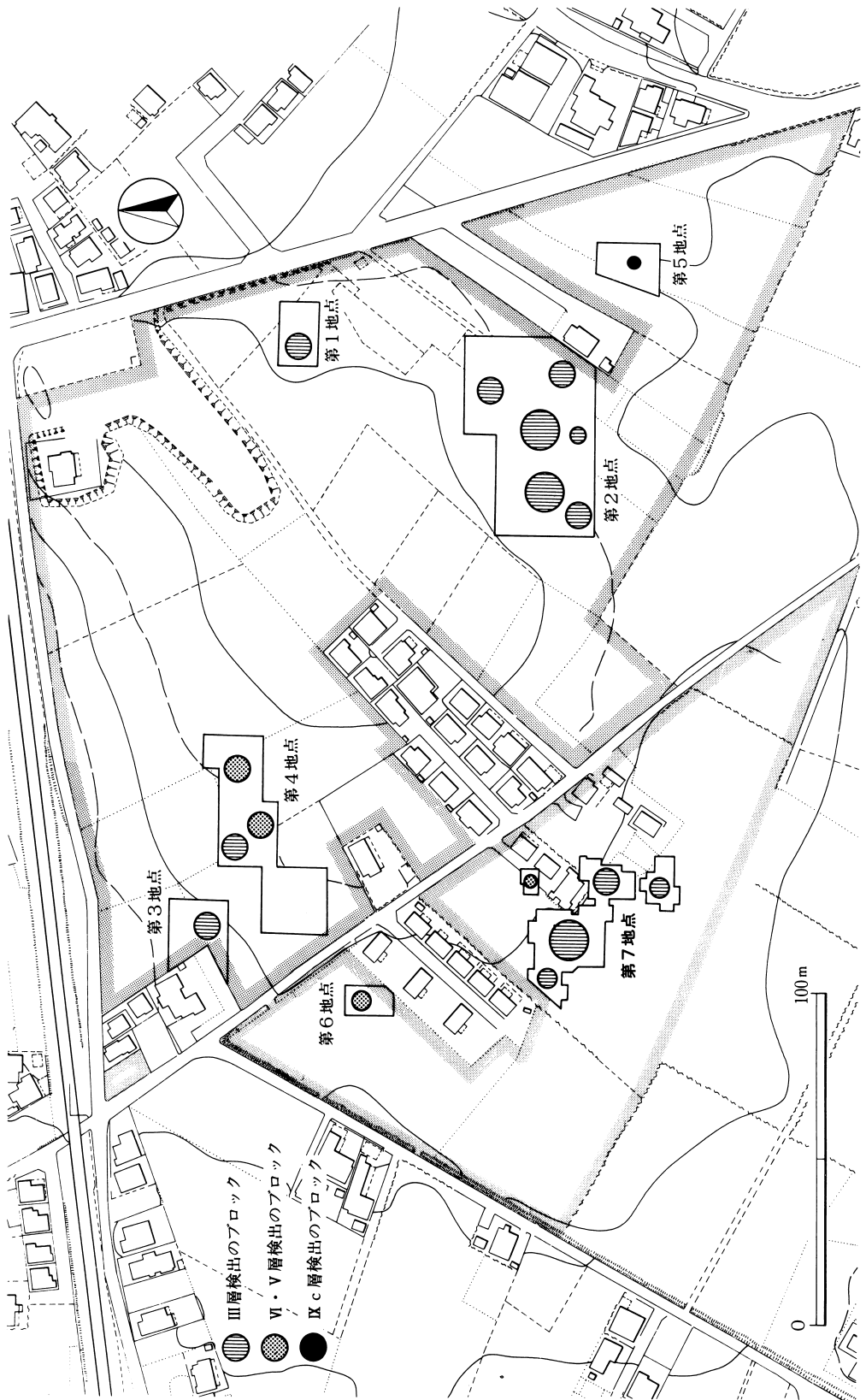
**大堀遺跡** 勝田川の支谷に面する緩傾斜地に立地する。やはり先土器時代を主体とする遺跡で、IX層上部から遺物集中が検出されている。

**西野遺跡** 大林遺跡の東側、谷を挟んで対岸に位置する。確認調査によって溝状遺構2条が検出されただけで本調査は実施されなかった。

**芋窪遺跡** 大堀遺跡が所在する台地の東方、手繰川の支谷を挟んだ対岸に立地する。他の諸遺跡と同様先土器時代を主体とする遺跡で、VII層から豊富な遺物が出土している。他には縄文時代の陥穴状土坑1基と平安時代の竪穴建物跡1棟が調査されている。

南志津地区の周辺にはこれほどまとまった先土器時代の遺跡は知られていない。しかし少し視野を広げると大規模な開発に伴って多くの遺跡が調査されている。例えば勝田川が合流する新川流域では八千代市萱田地区の権現後遺跡などの大遺跡群があり、手繰川を遡上すれば池花南遺跡などの四街道市内黒田地区の遺跡群がある。

上に略記した各遺跡のうち、唯一用地問題が未解決であった御塚山遺跡の一部、4,000㎡分(第2図の濃網部分)については、漸く平成3年度に調査のはこびとなり、平成3年11月1日に着手された。確認調査の結果III層及びIV層で先土器時代の石器が出土し、1,188㎡について本調査を実施して、5か所の遺物集中を検出した。今回の調査地点は、既報告の第1地点～第5地点、昭和60年度発掘区(ここでは第6地点とする)の後をうけて第7地点と呼び、検出された遺物集中についても第14ブロック～第18ブロックと呼称する。



第3図 御塚山遺跡各調査地点とブロック (1/2,000)

## 2 調査の方法

**方眼網の設定** 公共座標に基づいて50m×50mの大グリッドを、遺跡群全体を包括する形で設定した。大グリッドの名称は、西から東へA、B、C…、北から南へ1、2、3…とし、両者を組み合わせて呼ぶ。さらに大グリッドを5m×5mの小グリッドに100分割し、最北列西端を起点として東へ進み、00～99までの小グリッド番号を付す。したがって小グリッドの呼称は1A-00のようになる。

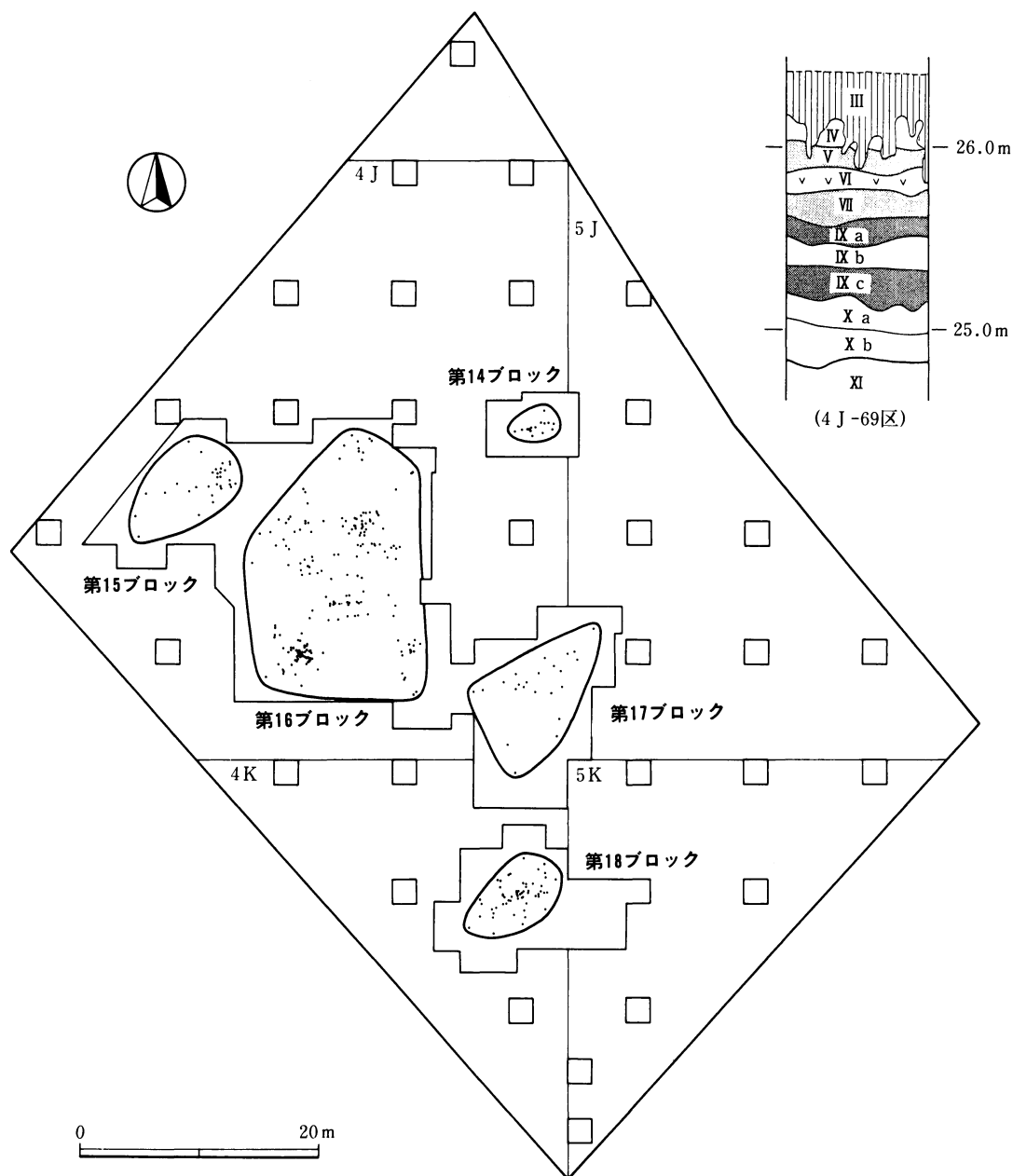
**確認調査** 第7地点の調査は、周辺の状況から判断して上層は調査対象に含まれず、下層の確認調査から始められた。まず調査区全体を重機によってローム層上面まで掘り下げた。その段階で上層遺構は全く認められなかった。確認調査は、小グリッドに合わせて2m×2mの確認坑を調査区全域に均等に配置して、武蔵野ローム層上位までを掘り下げた。

**本調査** 確認調査において遺物が検出されたグリッドの周囲を拡張して遺物集中の存否とその広がりを追及する方法を取った。

註1 田村隆・野口行雄・大野康男・上守秀明『佐倉市南志津地区埋蔵文化財発掘調査報告書1－佐倉市御塚山・大林・大堀・西野・芋窪遺跡－』（財）千葉県文化財センター 1989

## II 素 描

今回の御塚山遺跡第7地点の調査は、手繰川支谷の谷頭部分の奥端部の調査である。既調査地点では支谷の縁部に先土器時代の遺物集中が13か所検出されている。第7地点では5か所の先土器時代遺物集中を検出し、産出層準は異なるものの、結果的に谷頭を巡るように18か所の



第4図 第7地点全体図及び基本土層

遺物集中が弧状に分布することになる。

第7地点における立川ローム層の層序は基本的に既調査地点と同様である。第4図右上に4J-69区の土層柱状図を例示する。

III層 黄褐色を呈するソフトローム層。層厚は0.3m前後。既調査地点では明瞭な色調の相違によって上下2枚に分けられる場合があったが、当地点ではそのような状況は観察されない。

IV層 明褐色の硬質ローム層。赤色、赤橙色のスコリア粒を多く含む。遺存は良好でなく、III層との境界下に断続的に観察される。

V層 第1黒色帯。褐色、硬質のローム層で、層厚0.2m未満。以下の各層はいずれも0.1m～0.2m程度の層厚である。暗色のスコリア粒を多量に含む。

VI層 明黄褐色の硬質ローム層で、ATが肉眼でも容易に視認され、場所によってブロック状に分布している。

VII層 褐色のローム層。第2黒色帯上部に相当する。

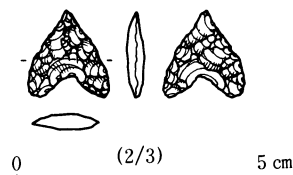
IX層 第2黒色帯下部に相当する。立川ローム層中で最も暗色の部分であるが、明褐色の間層（IXb層）が中間に介在することによって3層に細分される。IXa層とIXc層はいずれも暗褐色のローム層であるが、IXc層の方がより暗色で、暗緑色のスコリア粒を多く含む。

X層 立川ローム最下層で、粘性を帯びたXI層の上に不連続面を介して堆積している。当地点では上部の明褐色層（Xa層）と下部のやや暗色の層（Xb層）に細分された。

第7地点において検出された遺物集中は、1か所がIV層とV層の境界付近、他の4か所がIII層中から検出されたものである。前者を第1文化層と呼んで遺物集中を第14ブロックとする。特徴的な器種を持たないが、剥片生産に横剥ぎの技法が窺える。後者を第2文化層と呼んで遺物集中を第15ブロック～第18ブロックとする。剥片生産に石刃技法が含まれ、複数種のナイフ形石器、削器、楔形石器などを持つ。

既調査地点で検出された13か所の遺物集中は、3枚の文化層に大別され、ソフトローム層で検出された第I文化層に第1ブロック～第9ブロック、ハードローム層上部で検出された第II文化層に第10ブロック～第12ブロック、第2黒色帯下部で検出された第III文化層に第13ブロックが帰属する。第7地点の各ブロックについて見れば、第15ブロック～第18ブロックが第I文化層に、第14ブロックが第II文化層に概ね対比されることになるかも知れないが、厳密な対比関係がなく、敢えて文化層の呼称を替えた。

なお第7地点からは縄文時代以降の遺構は全く検出されず、遺物としても石鏃1点と縄文土器小片が2点出土しただけであった。第5図に石鏃を示す。黒曜石製で、最大長16.8mm、最大幅16.2mm、最大厚2.9mm、重量0.59gを測る。4J-64区から出土した。

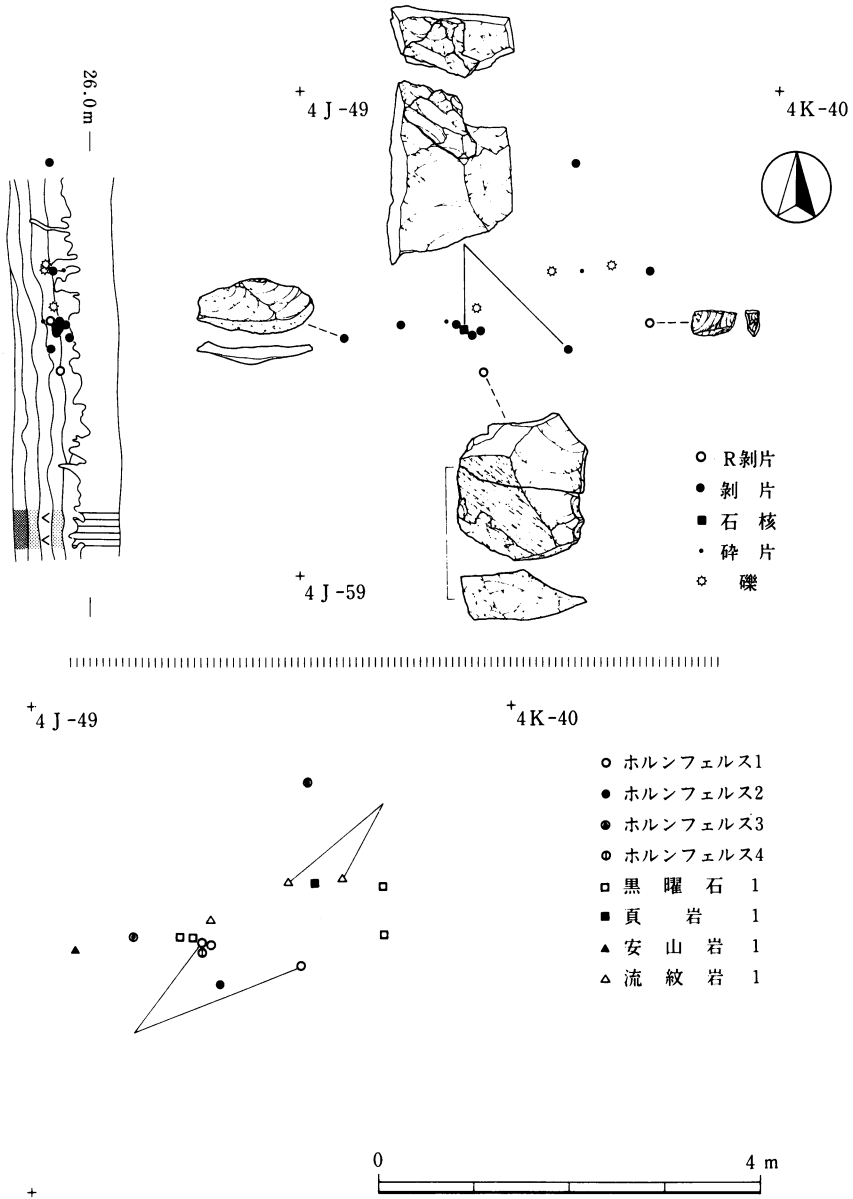


第5図 縄文時代の石器

### III 第1文化層

#### 1 梗概

前章で述べたように、本書では産出層準が下位のものから第1文化層、第2文化層と命名する。IV層からV層において検出された第1文化層では、小規模な遺物集中である第14ブロックがあるのみである。



第6図 第14ブロック遺物分布 (1/80)

## 2 第14ブロック

**出土状況** 4 J-49区の狭い範囲に17点の遺物が出土した。遺物の分布範囲は東西3.3m、南北2.2mを測る。ブロックの中央に剥片及び石核がやや集中するが、点数が少ないこともあってとりたてて特徴的な分布傾向を示すとは言えない。遺物出土レベルの高低差は0.3m強で、土層断面への投影図で示すとおり、IV層とV層の境界付近に集中する。

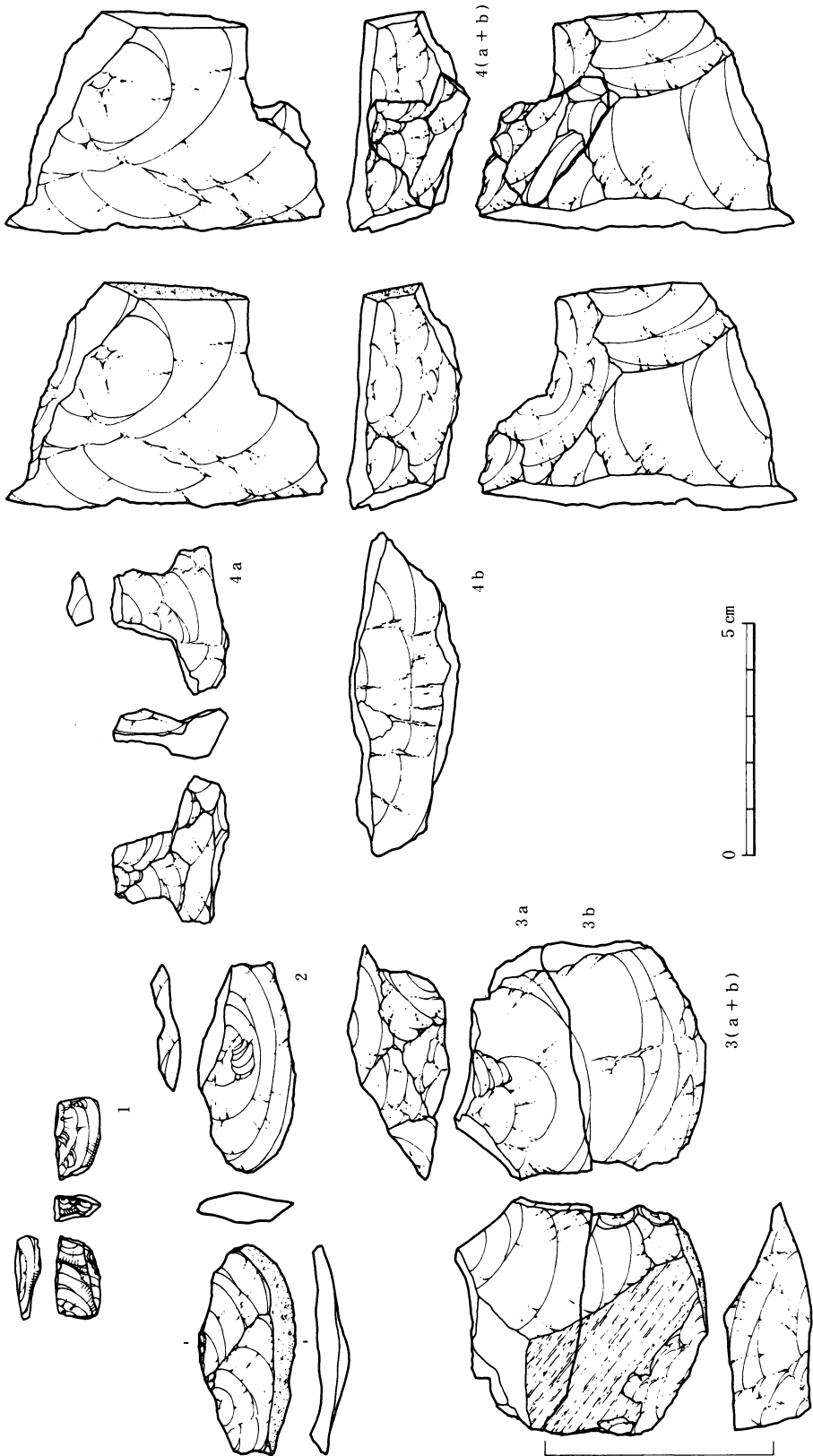
**母岩別資料の分布** 使用石材としては粘板岩を起源とするホルンフェルスが約半数を占めて卓越する。しかしホルンフェルスにしても4母岩あり、それぞれ1～3点ときわめて少数の遺物しか保有しない。ホルンフェルス1については石核と剥片の接合例があるが、それとてここで母岩消費が行われたと断ずるわけにはいくまい。他の石材としては黒曜石、頁岩、安山岩、流紋岩がある。それぞれ散発的で、最も多くの遺物を持つ黒曜石1でさえ剥片3点と碎片1点が分布するのみである。なお流紋岩1はいずれも礫片で、うち被熱痕が明瞭な2点が接合した。

**出土遺物** 接合資料を含めた4点を図示する。1は黒曜石1の剥片で背面右側縁に急斜な加工痕が認められるものである。折れて尾部が遺存したもので性格は判然としないが、頭部側を基部とするナイフ形石器の一種である可能性もあろうか。末端には刃こぼれ状の微細剥離痕が観察される。2は安山岩1の剥片である。その形状や背面の剥離痕から、横長剥片が連続的に剥離されている可能性が窺える。3はほぼ中央で二つに折れたホルンフェルス2の分厚い剥片である。大きく残る打面には複数の剥離面が交錯するが、これは旧作業面に由来するものと考えられる。この剥片は2点に折れた尾部側の3b背面右側縁に加工痕と見られる小剥離が加えられているが、この加工の際の加撃によって折れた可能性も考慮すべきか。この加工痕については、剥離角などから削器のような機能を考定することができよう。4はホルンフェルス1の剥片と石核の接合例である。石核4bは分厚い板状剥片石核で、厚さ、幅ともほぼ一定しており、主要剥離面を打面として、底面に到達する横長剥片を剥離(4aを含めて少なくとも3回以上)している。なお4aは剥離時の加撃の際に打点直下で約1/3がはじけているようである。この場合、石核の幅を規定しているのは折断ではないが、織笠昭が提唱する「殿山技法」<sup>(1)</sup>に相当すると考えてよいであろう。

## 3 小 結

第14ブロックは、その性格が判然とせず、また特徴的な器種を持たない零細なものであったが、剥片及び接合資料から「横剥ぎ」の卓越を指摘することができ、出土層準と併せ、興味深い資料であると言えよう。

註1 織笠昭「殿山技法と国府型ナイフ形石器」『考古学雑誌』72-4 1987



第7図 第14ブロック出土遺物 (2/3)



第1表 第14ブロック出土遺物計測表

挿図 番号	遺物番号	器種	石質・母岩	最大長 mm	最大幅 mm	最大厚 mm	重量 g	打角 剥離角	調整角	使用痕 の有無	折れ面 の有無	欠損 の有無
2	4 J-49-1	剥片	安山岩 1	21.6	45.8	6.9	5.51	125				
	4 J-49-2	剥片	ホルンフェルス3	25.9	27.6	9.9	5.56	96				
	4 J-49-3	砕片	黒曜石 1	9.8	9.1	4.1	0.22					
4 b	4 J-49-4	剥片	黒曜石 1	32.2	25.9	15.3	12.56					
	4 J-49-5	石核	ホルンフェルス1	22.3	49.8	68.8	74.65	64				
3 a	4 J-49-6	剥片	ホルンフェルス4	53.5	44.0	16.3	27.41	112				
	4 J-49-7a	剥片	ホルンフェルス2	31.3	51.3	22.6	36.03	116			+	
3 b	4 J-49-7b	R剥片	ホルンフェルス2	30.5	53.5	19.6	38.03		68-72		++	
	4 J-49-8	剥片	ホルンフェルス3	6.1	14.6	5.8	0.33				+	
4 a	4 J-49-9	剥片	ホルンフェルス1	19.1	23.2	6.2	2.53	116				
	4 J-49-10	礫	流紋岩 1	8.3	12.6	8.5	0.67					
	4 J-49-12	剥片	ホルンフェルス1	26.8	31.5	9.6	5.73	116				
	4 J-49-13	礫	流紋岩 1	47.7	59.1	25.6	61.45			被熱痕		
	4 J-49-14	砕片	真岩 1	14.2	7.8	3.0	0.32					
1	4 J-49-15	礫	流紋岩 1	18.9	23.8	8.7					被熱痕	
	4 J-49-16	剥片	黒曜石 1	11.7	10.4	5.5	0.46	128				
	4 J-49-17	R剥片	黒曜石 1	17.6	9.8	5.3	0.99		82-86	?	+	

第2表 第14ブロック出土遺物組成表

	R剥片	剥片	砕片	石核	礫	計	総重量g
真岩 1			1			1	0.32
安山岩 1		1				1	5.51
流紋岩 1					3	3	62.12
黒曜石 1	1	2	1			4	14.23
ホルンフェルス1			2	1		3	82.91
ホルンフェルス2	1	1				2	74.06
ホルンフェルス3		2				2	5.89
ホルンフェルス4		1				1	27.41
合計	2	7	4	1	3	17	272.45

## IV 第2文化層

### 1 梗概

III層から検出されたブロック群を総括して第2文化層とする。調査区の南西縁にほぼ沿って第15ブロックから第18ブロックまでの4つのブロックが並び、それぞれ3～5mの間隔をおいている。ブロックの規模としては第16ブロックが傑出し、総遺物点数の過半数を占めるが、このブロックはさらに4つのクラスターに分けて考えることもできる。

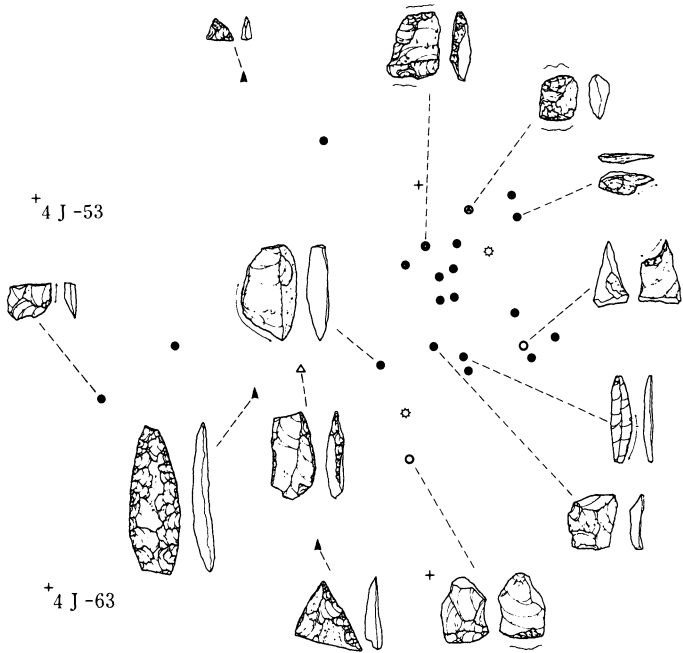
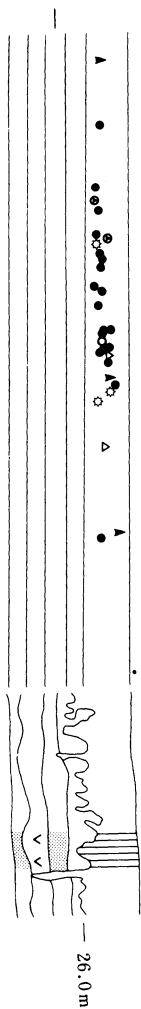
これら4つのブロック相互の関係は微妙である。同一母岩と思われる資料はブロック間に跨がって少量存在するが、四散による重複の可能性も皆無ではないほどそれぞれのブロックの内容は独立的である。第15ブロックから第17ブロックにはナイフ形石器が含まれるが、ナイフ形石器を主体とするのは第16ブロックのみで、第15ブロックはむしろ石槍が多い。また第18ブロックは削器が目立つブロックである、なお、母岩番号については第2文化層に属する各ブロックに共通するものとする。

### 2 第15ブロック

**出土状況** 4J-43、52～54、62区に跨がって分布する。総遺物点数は31点。分布範囲は東西8.5m、南北7.9mであるが、ブロックの東端の4J-54区に半数を越えて集中し、西側はきわめて散漫な分布しか示さない。定型的な器種としては石槍3点とナイフ形石器1点があるが、それらはブロック西半の散漫な部分に位置する。遺物出土レベルの高低差は0.4m余りで、すべてIII層中より出土している。

**母岩別資料の分布** 母岩別資料の数は23個体に及ぶが、それぞれは非常に少量で大半が1点のみの個体であり、最大でも瑪瑙1の4点を数えるに過ぎない。したがって接合資料も存在しない。使用された石材も比較的多様で、石器の素材に限っても頁岩、珪質頁岩、凝灰岩、安山岩、黒曜石、瑪瑙、チャートがある。このブロックは、微細な碎片を含まないことと併せ、いかにサンプリングエラーを考慮したとしても、石器の製作とは異なった性格を有することだけは明確である。

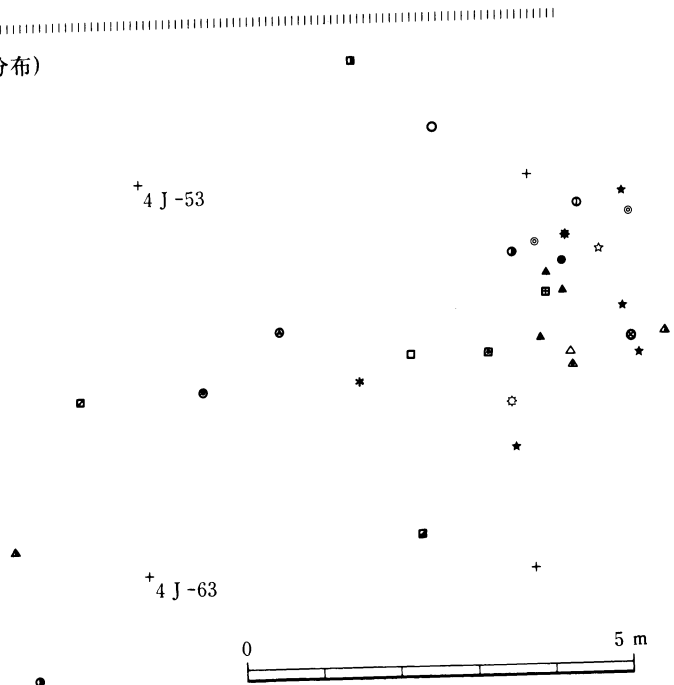
**出土遺物** 13点を図示する。1は黒曜石2製の石槍尖頭部または基部である。両面加工で、図のように置いた場合、表裏とも左側縁に最終的な調整が加えられている。先端の折れ面については、それを切ってネガティブバルブを持つ調整剝離が加えられていることから、石器折損以前のものと考えられる。2は安山岩1製の石槍。尖頭部、基部ともに欠損する。横長の剝片を素材とすると思われる。半両面加工で、裏面の調整は多くが階段状剝離となっている。3は珪質頁岩4製の片面加工の石槍で、尖頭部のみ遺存する。一部は礫皮面を残し、背面左側縁に



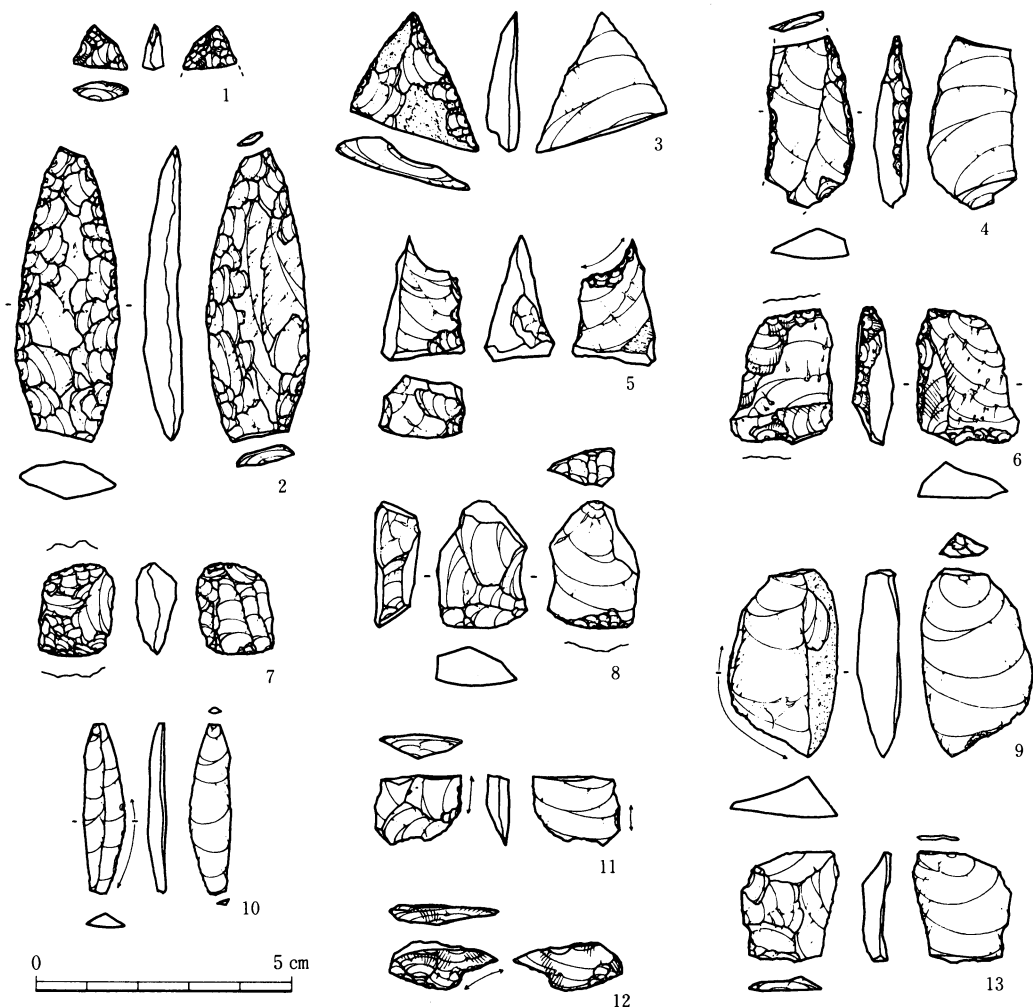
- |          |       |
|----------|-------|
| △ ナイフ形石器 | ○ R剥片 |
| ▲ 石 槍    | ● 剥 片 |
| ◉ 楔形石器   | ・ 碎 片 |
| ● 削 器    | ☆ 礫   |

(母岩別分布)

- |           |          |
|-----------|----------|
| ○ 珪質頁岩 1  | ● チャート 1 |
| ● 珪質頁岩 2  | ● チャート 2 |
| □ 珪質頁岩 3  | ● チャート 3 |
| ■ 珪質頁岩 4  | * 安山岩 1  |
| ■ 珪質頁岩 5  | ▲ 安山岩 2  |
| ● 珪質頁岩 6  | ■ 安山岩 3  |
| ▲ 頁 岩 1   | □ 流紋岩 1  |
| △ 頁 岩 2   | ● 黒曜石 1  |
| ○ 砂 岩 1   | ■ 黒曜石 2  |
| * 砂 岩 2   | ★ 瑪瑙 1   |
| ☆ 砂 岩 3   | ▲ 瑪瑙 2   |
| ○ 凝 灰 岩 1 |          |

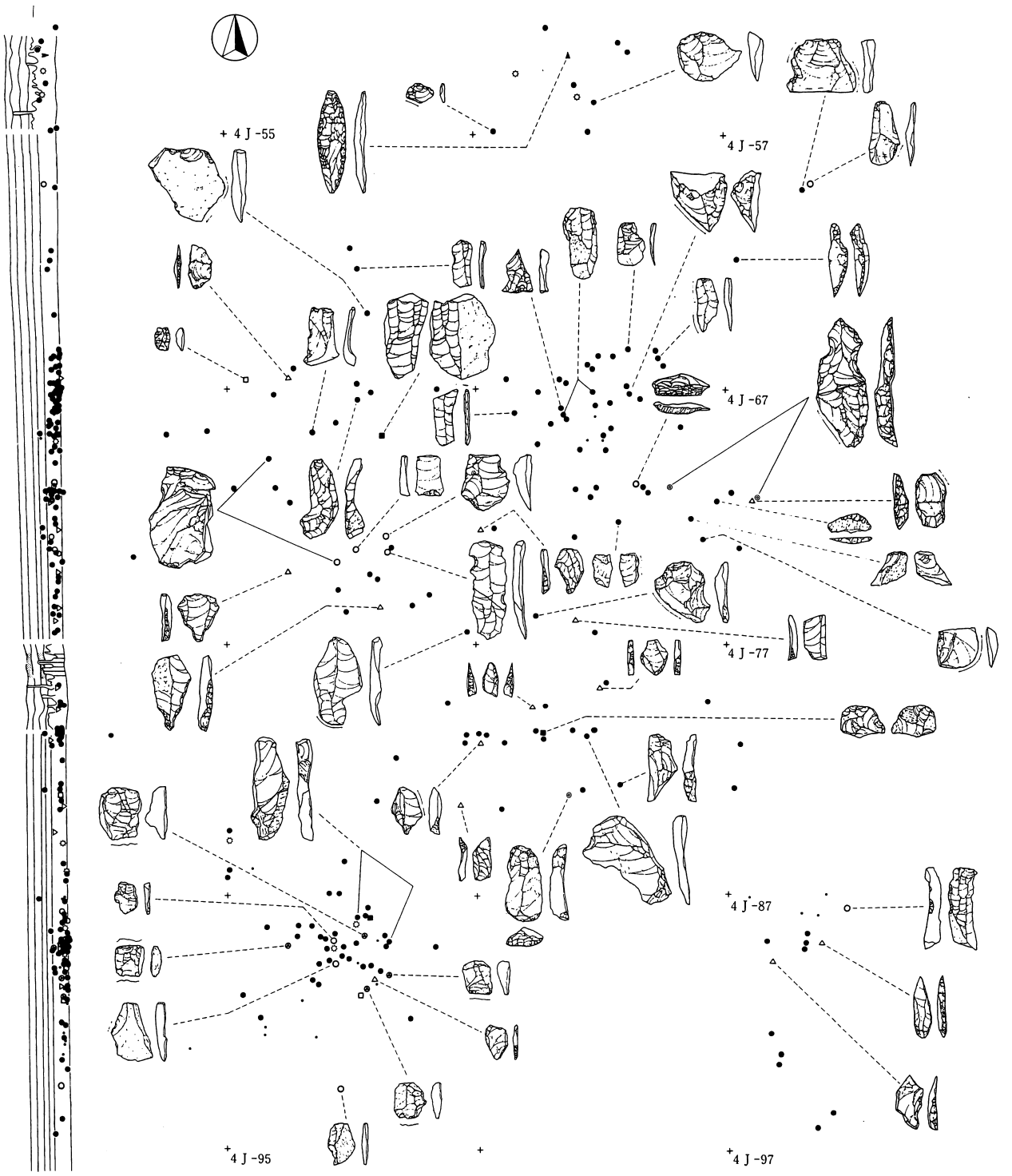


第 8 図 第15ブロック遺物分布 (1/100)

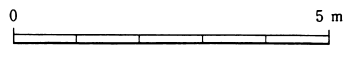


第9図 第15ブロック出土遺物 (2/3)

は調整が及ばない部分がある。4はナイフ形石器である。珪質頁岩3。これも尖頭部、基部を欠損する。両設打面の石核から剥離された石刃を素材としていると思われる。5はチャート3の石核底面に達する剥片の腹面上端にノッチ状の剥離を施す石器である。きわめて先鋭な尖頭部を得ているため石錐の可能性もあるが、やはりノッチ状剥離を重視すべきであろう。6は黒曜石1の削器である。腹面左側縁ほぼ全体に比較的急斜な剥離が連続するが、上下両端には両極加撃による剥離が認められる。7は凝灰岩1の楔形石器。小型ではほぼ矩形を呈するが、相対的に厚みがある。8は瑪瑙1の剥片の腹面下端に垂直方向の打撃による剥離痕が観察されるもの。楔形石器と同様に用いられたものか。9～12は剥片の縁辺の一部に使用痕の可能性のある微細剥離が認められるものを集めた。13は頁岩1の剥片であるが、頁岩1の剥片3点のうち2点が折れ面を持っており、意図的な折断である可能性もある。



- △ ナイフ形石器 ● 剥片
- ▲ 石槍・碎片
- 撞器削器 ■ 石核
- R 剥片 □ 両極石器
- 楔形石器 ○ 礫



第10図 第16ブロック遺物分布(1/100)

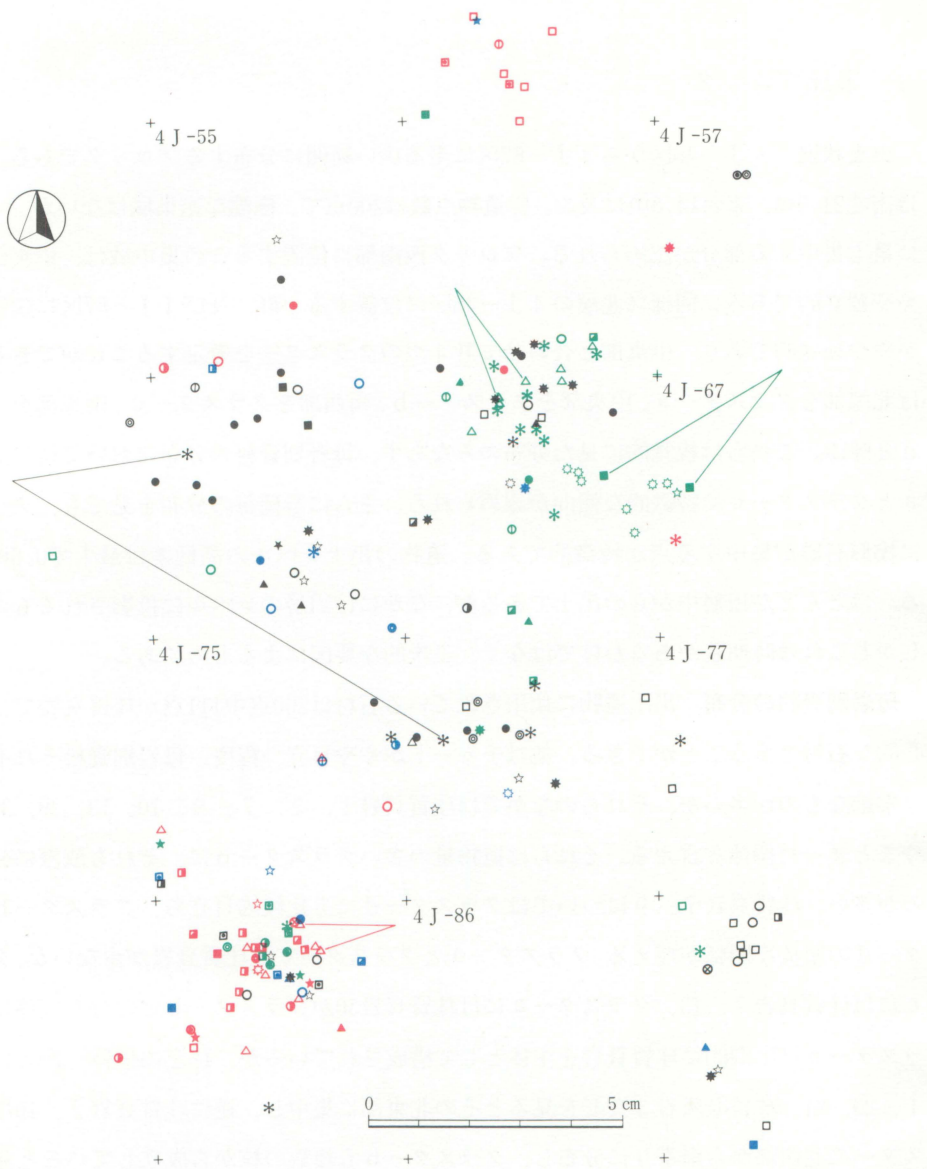
— 26.0m

### 3 第16ブロック

**出土状況** 4 J-46区から4 J-87区に至る広い範囲に分布するブロックである。分布範囲は南北21.9m、東西14.8mに及ぶ。総遺物点数は200点で、極端な密集域はないが、4 J-85区に最も集中する部分が認められる。ブロック西南部に位置するこの集中域は、中央部から見てやや独立的である。同様に北端の4 J-46区に位置する一群、及び4 J-87区に位置する一群がやや独立的であり、中央部と合わせて計4つのクラスターを考定することができる。ここでは北端部をクラスターa、中央部をクラスターb、南西部をクラスターc、南東部をクラスターdと呼ぶ。これらは視覚的に見た分布のみならず、母岩別資料の分布において特にクラスターaとクラスターcに特徴的な傾向が認められる。さらに器種毎の分布を見ても、クラスターcに楔形石器が集中する点の特徴的である。遺物の出土レベルの高低差は最大で0.6m程度である。ほとんどがⅢ層中からの出土であるが、なかにはⅥ層のレベルに投影されるものがある。しかしこれは時期差があるわけではなく、二次的な要因によるものである。

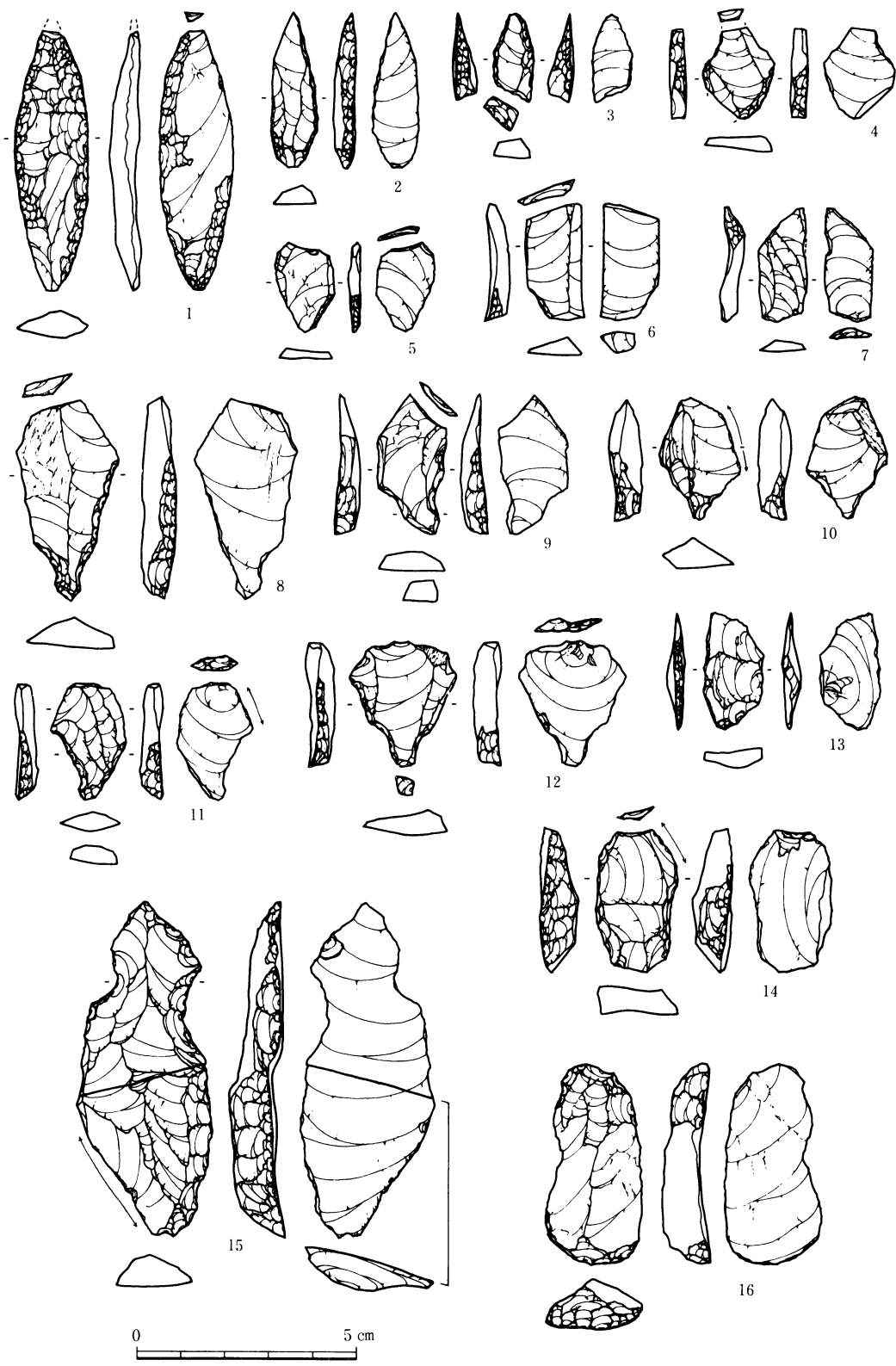
**母岩別資料の分布** 出土遺物に使用されている石材は200点中111点が珪質頁岩で、これを中心的な石材とすることができる。他はチャートがやや目立つ程度。母岩別資料それぞれはやはり零細なものが多いが、それらのなかでは珪質頁岩1、2、7、9、10、13、29、31などがややまとまった個体と言える。それらは遺物量の多いクラスターbに、それも散漫に分布するものが多い。珪質頁岩7、9についてはクラスターdにも比較的目立ち、クラスターbとクラスターdの密接な関係が窺える。クラスターaとクラスターcは珪質頁岩が少ないが、クラスターcには珪質頁岩7、13、クラスターaには珪質頁岩30がクラスターbとの分有関係にある。クラスターbは圧倒的に珪質頁岩を主体として構成されているが、特定の個体、例えば珪質頁岩1、29、31、珪質凝灰岩3などを見るとその北東部に集中し、逆に珪質頁岩2、10などはクラスターの北西部から南寄りに分布し、クラスターbも複数の核から成立していると見ることもできる。一方他の石材では、安山岩4がクラスターaに5点、クラスターcに1点分布している。クラスターaと他のクラスターとの共有母岩はこの安山岩4と先述の珪質頁岩30だけであり、クラスターaの相対的独立性が看取される。またクラスターcについては、黒曜石3の全点が含まれるなどこれもまた独立性を有すると言えよう。

**出土遺物** 58点を図示する。1は半両面加工の石槍である。細身で、先端を欠損している。主たる調整は背面側に加えられるが、基部のみ腹面側に入念な調整が認められる。この石器はチャート4の単体資料であること、ブロックの北端で出土していること、他に同種の石槍を持たないことなどから、重複による混入の可能性も想定できるが、しかし積極的に分離する根拠もないため、ここでは当ブロックの資料として扱う。2～14をナイフ形石器とする。2は小型かつ細身で、先鋭な尖頭部を有する。背面左側縁側は基部にだけ急斜な加工があるが、側縁に



- |           |           |           |         |           |             |
|-----------|-----------|-----------|---------|-----------|-------------|
| * 珪質頁岩 1  | □ 珪質頁岩 18 | ◇ 珪質頁岩 31 | ○ 凝灰岩 4 | ■ チャート 4  | ● チャート 17   |
| ● 珪質頁岩 2  | ★ 珪質頁岩 19 | ☆ 珪質頁岩 32 | ● 凝灰岩 5 | □ チャート 5  | ● チャート 18   |
| ○ 珪質頁岩 7  | ○ 珪質頁岩 20 | ▲ 頁岩 3    | □ 安山岩 4 | △ チャート 6  | ● チャート 19   |
| ◎ 珪質頁岩 8  | ■ 珪質頁岩 21 | ■ 頁岩 4    | * 安山岩 5 | ● チャート 7  | □ チャート 20   |
| □ 珪質頁岩 9  | △ 珪質頁岩 22 | ● 砂岩 2    | ■ 安山岩 6 | ★ チャート 8  | ★ ホルンフェルス 1 |
| * 珪質頁岩 10 | ◎ 珪質頁岩 23 | ● 砂岩 4    | ○ 安山岩 7 | ● チャート 9  | ○ ホルンフェルス 2 |
| ■ 珪質頁岩 11 | * 珪質頁岩 24 | □ 砂岩 5    | ☆ 安山岩 8 | ○ チャート 10 | ■ ホルンフェルス 3 |
| ◇ 珪質頁岩 12 | ● 珪質頁岩 25 | ★ 砂岩 6    | ▲ 安山岩 9 | ● チャート 11 | △ ホルンフェルス 4 |
| ☆ 珪質頁岩 13 | ○ 珪質頁岩 26 | ◇ 珪質凝灰岩 1 | ■ 流紋岩 2 | * チャート 12 |             |
| ▲ 珪質頁岩 14 | □ 珪質頁岩 27 | ■ 珪質凝灰岩 2 | ■ 流紋岩 3 | ■ チャート 13 |             |
| ■ 珪質頁岩 15 | □ 珪質頁岩 28 | △ 珪質凝灰岩 3 | ● 黒曜石 1 | ◇ チャート 14 |             |
| ● 珪質頁岩 16 | * 珪質頁岩 29 | * 凝灰岩 2   | ■ 黒曜石 3 | ☆ チャート 15 |             |
| ● 珪質頁岩 17 | ■ 珪質頁岩 30 | ● 凝灰岩 3   | ★ 瑪瑙 2  | ▲ チャート 16 |             |

第11図 第16ブロック母岩別分布 (1/150)



第12図 第16ブロック出土遺物1 (2/3)

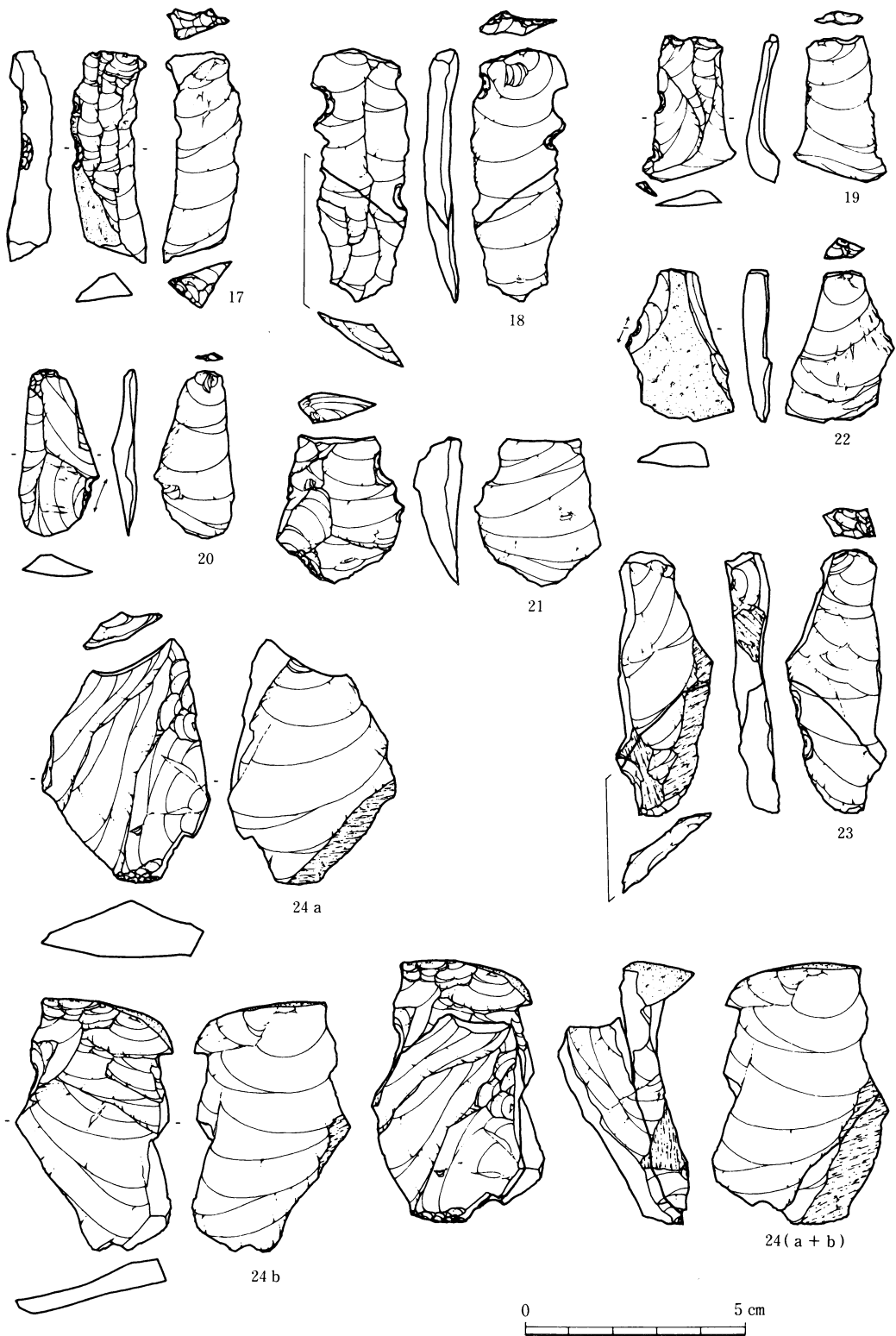


も微細な剥離が観察される。3も尖頭部を有する石器であるが、両側縁全面に急斜な加工が施されるものである。基部はおそらく折損した後、折れ面に再調整が加えられている。4も尖頭部を有した石器であろうと思われるが、先端、基部ともに折損している。以上3点は珪質頁岩乃至珪質凝灰岩の石刃を素材とする。5はチャート10の剥片の頭部側を折ってそこに急斜な剥離を加えて基部調整とするものである。6は石刃の末端の一部に調整を施すもので、頭部側を欠損するため全体の形状は不詳。7は凝灰岩4製のいわゆる截頂石刃である。8～12は共通する特徴を有する石器で、いずれも基部を入念に調整してつまみ状に作り出している。11、12は上端に打面を残す完形品で、11の腹面右側縁の刃部として残された部位には微細剥離痕が観察される。8～10はいずれも上端が折れており、尖頭部を有したナイフ形石器と考えることもできるが、11、12の存在により、意図的に折断されている可能性も否定できまい。13は幅広の剥片を横に用い、末端ほぼ全体に急斜な調整を施すものである。14も剥片軸を横位に用いる石器であるが、これは東北産硬質頁岩製の分厚いもの。本来尖頭部を有したもののか。背面右側縁尖頭部寄りに微細剥離が観察される。

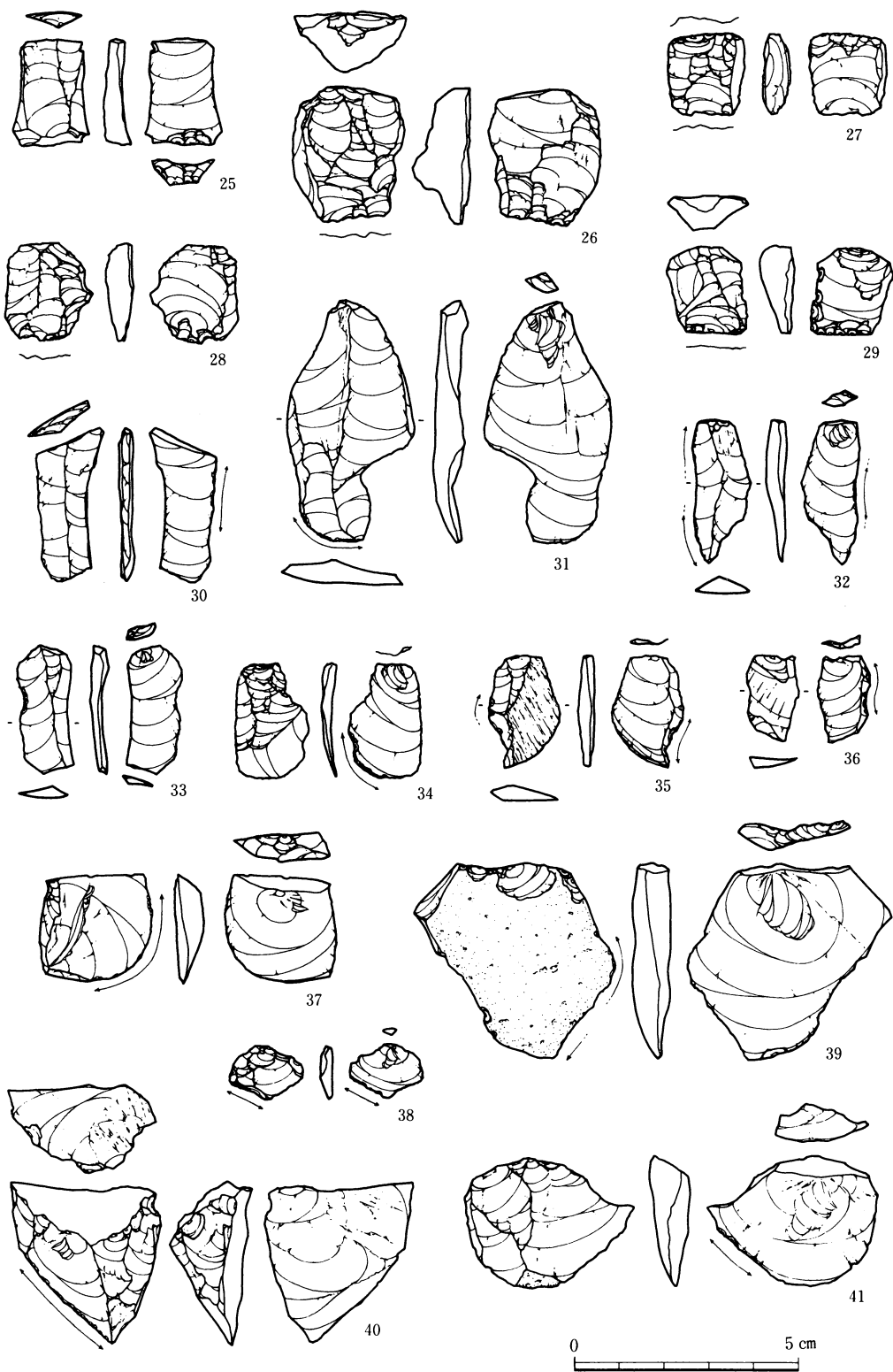
15は削器とした。やはり東北産硬質頁岩を用い、ほぼ中位で折れている。同種の石材はクラスターb東寄りに集中する傾向がある。右側縁全体に調整が施されて一部は大きく湾曲しており、また左側縁にも大きな剥離によってノッチ状に内湾した部分がある。見方によって尖頭部を持つとも言えるが、左側縁の下方に使用痕かと思われる微細剥離痕が連続し、機能の想定が難しい石器ではある。16は搔器である。厚い縦長剥片の末端に急斜な加工を施して刃部とし、頭部側にも入念な調整がある。

17～24aは剥片の縁辺の一部に調整加工が認められるものである。17は石核底面に達する石刃の背面左側縁の一部に二次剥離痕が見られる。削器とすべきか。18は石刃の背腹から、左右に1か所ずつ計4か所のノッチ状加工を持つ。19～23はそれぞれ縁辺の一部に連続的ではない二次的な剥離が加えられている。22などについては企図されたものかどうかは明確ではない。24は珪質頁岩10の剥片2点の接合資料である。2点とも剥離方向は同一。24aは頭部側に折れ面があり、末端の幅1cm強に互って調整痕が認められる。25は珪質頁岩19の石刃尾部で、底面に達している。両設打面で、底面に打面調整が認められるものそこから剥離は行われず、逆位から剥離されたもの。腹面末端に垂直方向の加撃による剥離痕がある。第15ブロック8と同様のものと言える。26～29は楔形石器である。すべてクラスターcから出土している。加撃方向はいずれも上下一方向であるが、29の裏面には横方向の小剥離が認められる。石材は29のみ珪質頁岩で、他はチャート及び安山岩とクラスターcに卓越する石材が用いられている。

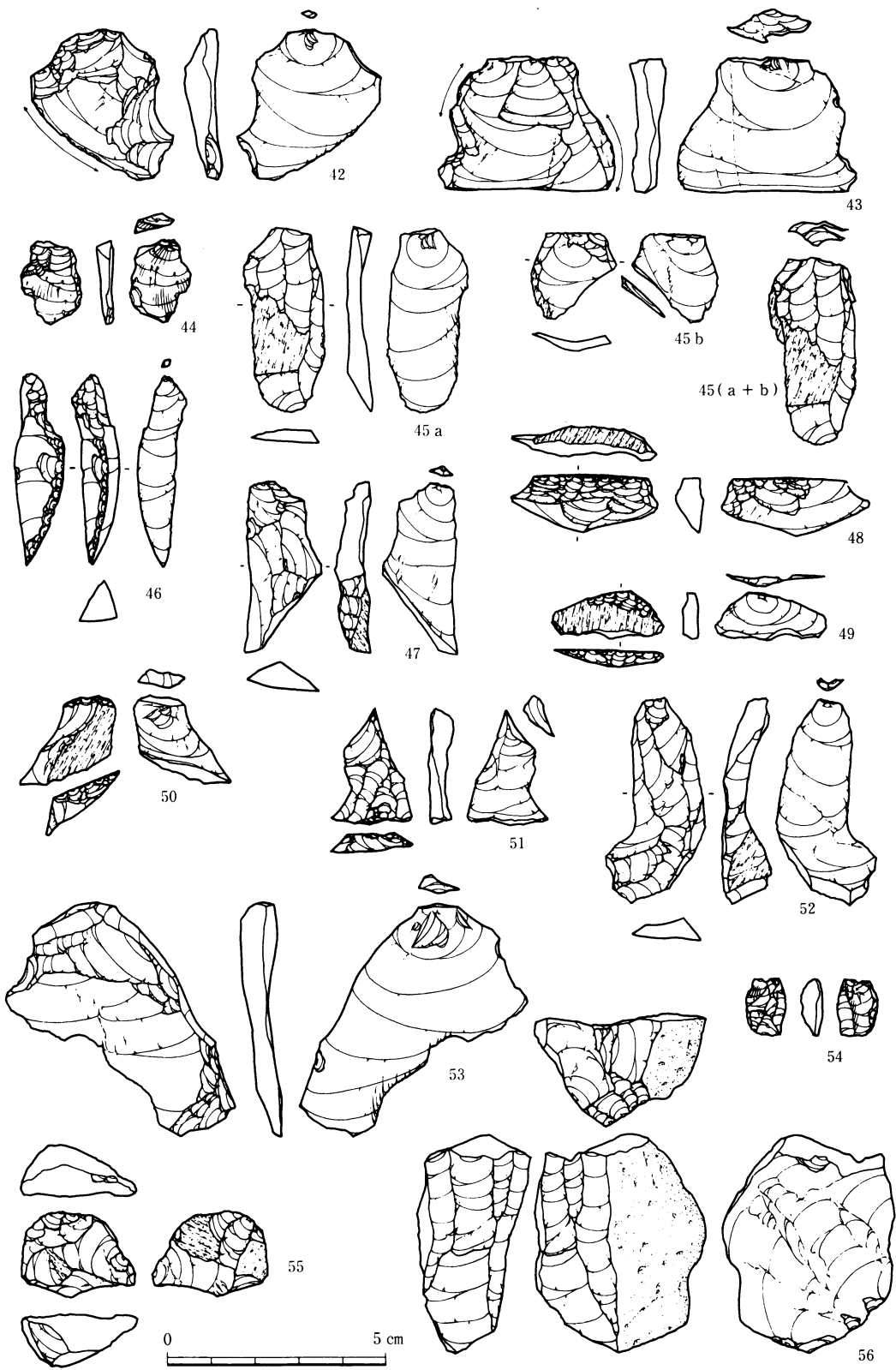
30～45aまでには使用痕と思われる微細剥離痕が観察されるものを示す。石器によりその部位はさまざまであるが、30、32、33など石刃の場合は側縁の一部または全部に微細剥離痕が観察されることが多い。45は珪質凝灰岩3の剥片2点の接合資料である。ともに同一打面から連



第13図 第16ブロック出土遺物 2 (2/3)

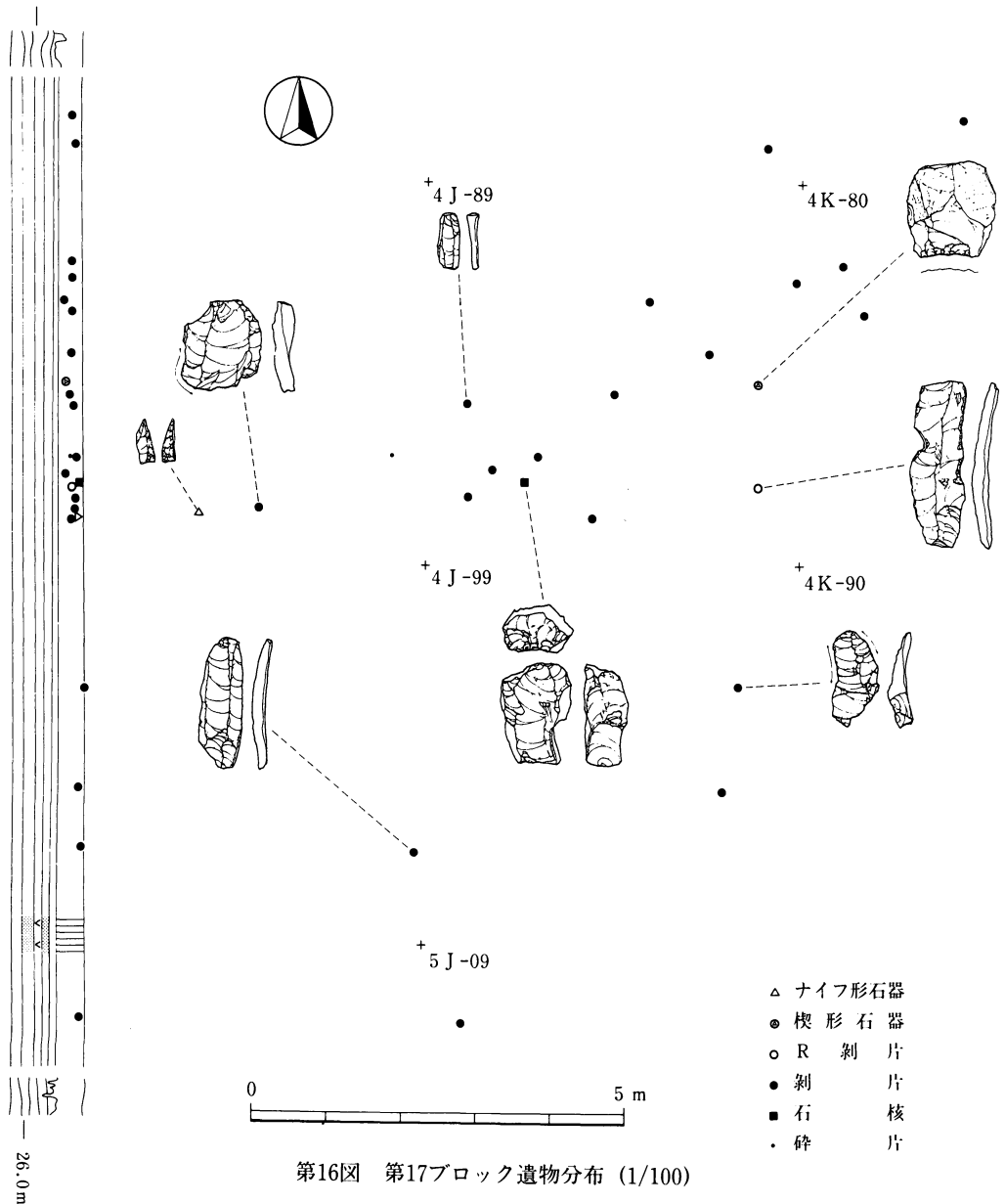


第14図 第16ブロック出土遺物3 (2/3)



第15図 第16ブロック出土遺物 4 (2/3)

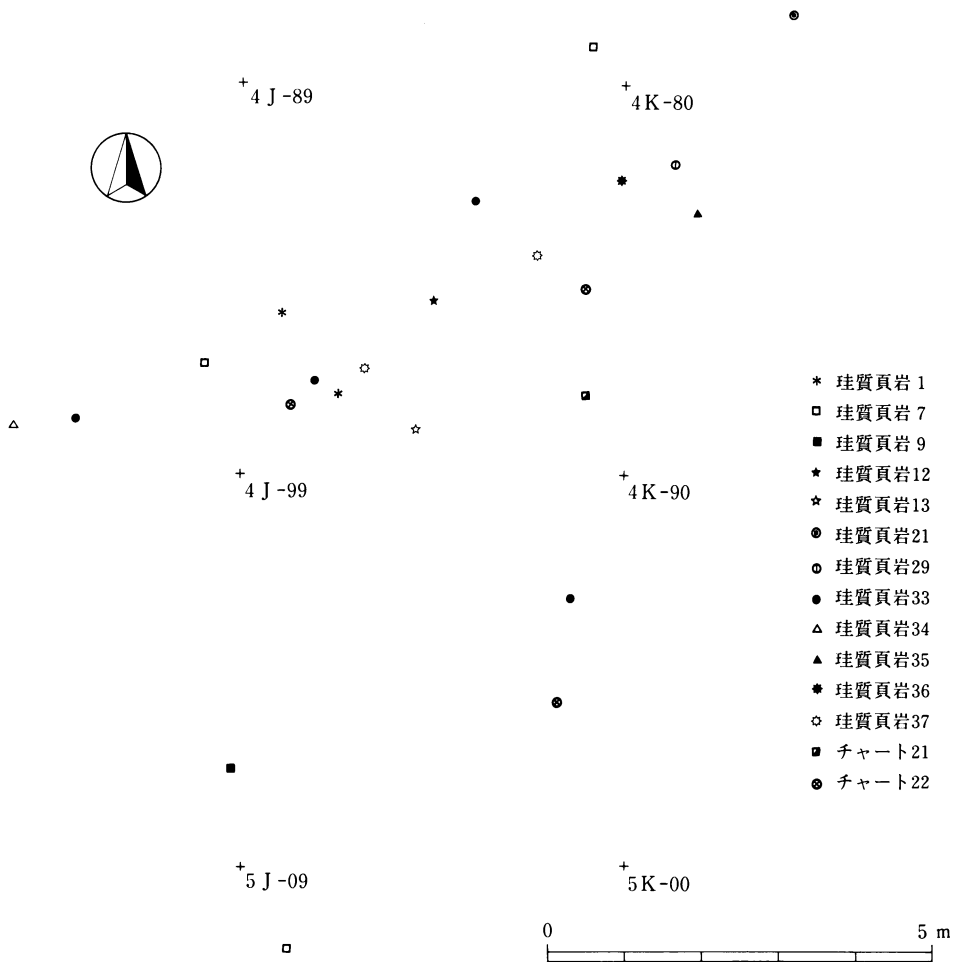
統的に剥離されたもので、打面調整は行われていない。46は断面三角形を呈する剥片で背稜上に細かい剥離が連続している。この稜上調整が剥片剥離以前に行われたかどうかは明断できない。剥片剥離後であった場合削器あるいは尖頭部を利した石器ということになるが、ここでは剥片としておく。48～50の3点は37とともに珪質頁岩31の剥片である。48は横長の剥片で、背面側頭部のみならず腹面側にも剥離が認められる。この意図は明確ではないが、打瘤の除去を目指したと考えるのが妥当か。そうするとこれはR剥片ということになる。49、50はいずれも末端に背面からのネガティブバルブを持つ細かい剥離痕が認められるものである。これらの場合は剥片剥離以前の剥離痕と考えられ、旧作業面に由来すると見るのが妥当か。51は石核底面



を切る剥片。52は石刃状の剥片である。56と同じ珪質頁岩11であるが、石核56から剥離されたものとは考えられず、分割された他の石核から剥離されたものであろう。基本的に両設打面であるが、末端を見ると旧作業面を打面としていることが解る。53は珪質頁岩8の大ぶりの剥片である。54はごく小さな両極石核。黒曜石1で、同種のものもう1点ある。しかしその性格は不詳というほかはない。55は石核としたが、これも両極剥離が行われたもの。56は唯一の石刃石核と言えるものである。これで見ると単設打面で、打面が再生されてさらに打面調整が行われているものの、その後剥片剥離は行われていない。

#### 4 第17ブロック

**出土状況** 4 J-89区を中心に検出されたブロックである。分布範囲は広く、南北11.9m、東西10.3mを測る。しかし密度は希薄で、総遺物点数は24点に過ぎない。偏在や特定の場所に集中分布する傾向は見いだせないが、とくに南側は分布が疎ではある。遺物出土レベルの高低

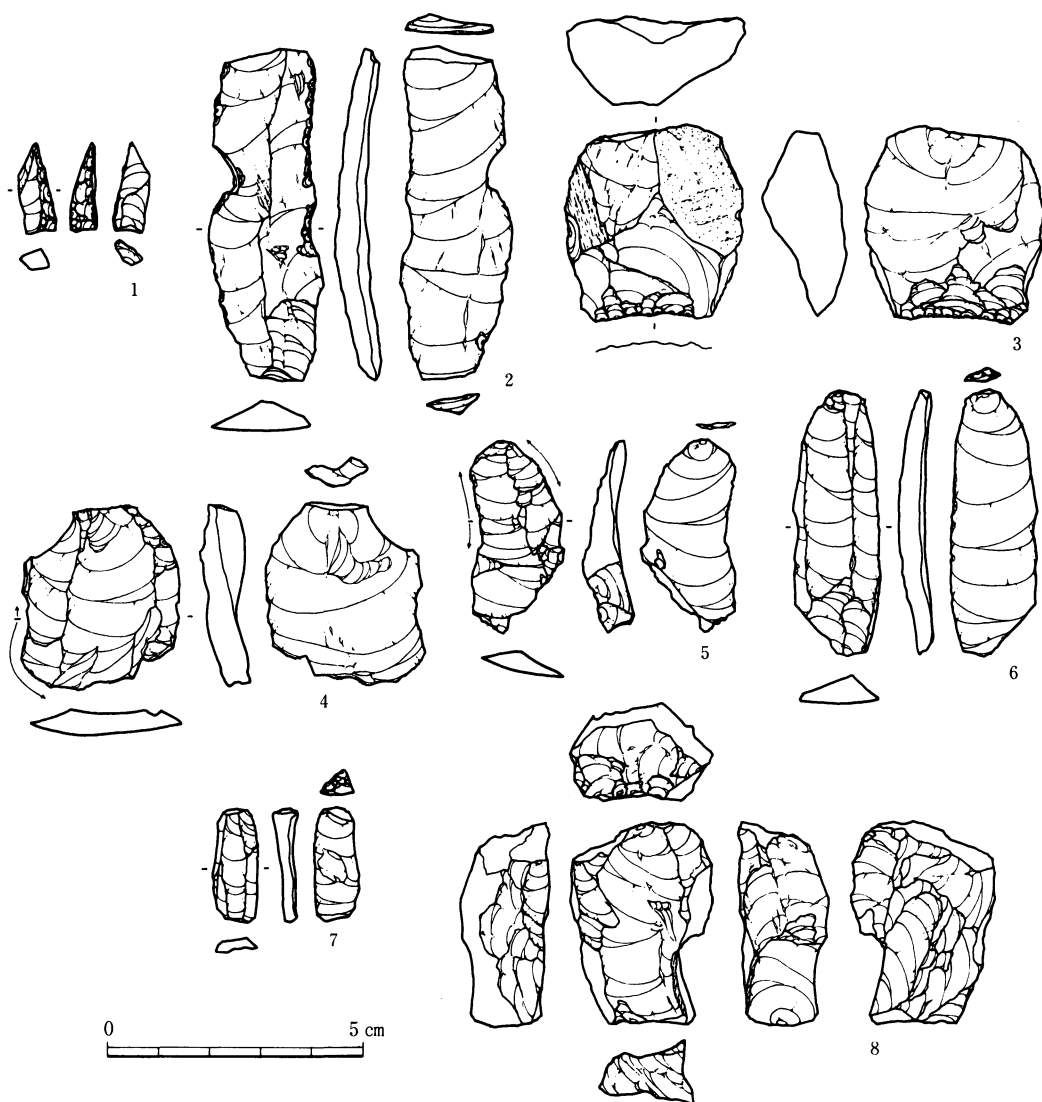


第17図 第17ブロック母岩別分布 (1/100)

差は0.3m程度で、すべてIII層中からの出土であった。

**母岩別資料の分布** 前述の2つのブロックと同様、単体資料が多い。複数の遺物を出土した母岩は5個体で、最多の珪質頁岩33でさえ4点の剥片が存在しただけである。特定の個体の特徴的な分布傾向も指摘できない。このような状況であるため接合資料は認められなかった。ただ珪質頁岩1、7、9、12、13は他ブロックと共有される個体である。

**出土遺物** 8点を図示する。1は当ブロック唯一のナイフ形石器である。珪質頁岩34。欠損して尖頭部のみ残されるが、おそらく先鋭な尖頭部を企図して右側縁全体と左側縁基部側に調整を施す整美なナイフ形石器であったろう。2はチャート21製の頭尾両端が折れた石刃で、背面右側縁の一部にある程度連続的な調整が施されている。ここではR剥片としたが、削器と考



第18図 第17ブロック出土遺物 (2/3)

えてよい石器であろう。なお背面構成から両設打面の石核から剥離されていることが解る。3は楔形石器である。チャート22。礫皮面、節理面とその間の剥離痕で構成される表面はかなり高さがあり、裏面は平坦。裏面上端は1枚の剥離面で、下端は表裏とも細かい剥離痕が連続している。4は背面左側縁の一部、5は背面両側縁の一部、6は腹面左側縁の一部に使用痕と見られる微細剥離痕が観察されるものである。4と5は珪質頁岩33製、6は珪質頁岩9の整った形状の石刃で、これも上下両方向からの剥離痕が認められる。7と8は珪質頁岩1の剥片と石核である。8は打面調整が行われている石核で、交錯した剥離痕から打面がかなり移動していることが解る。

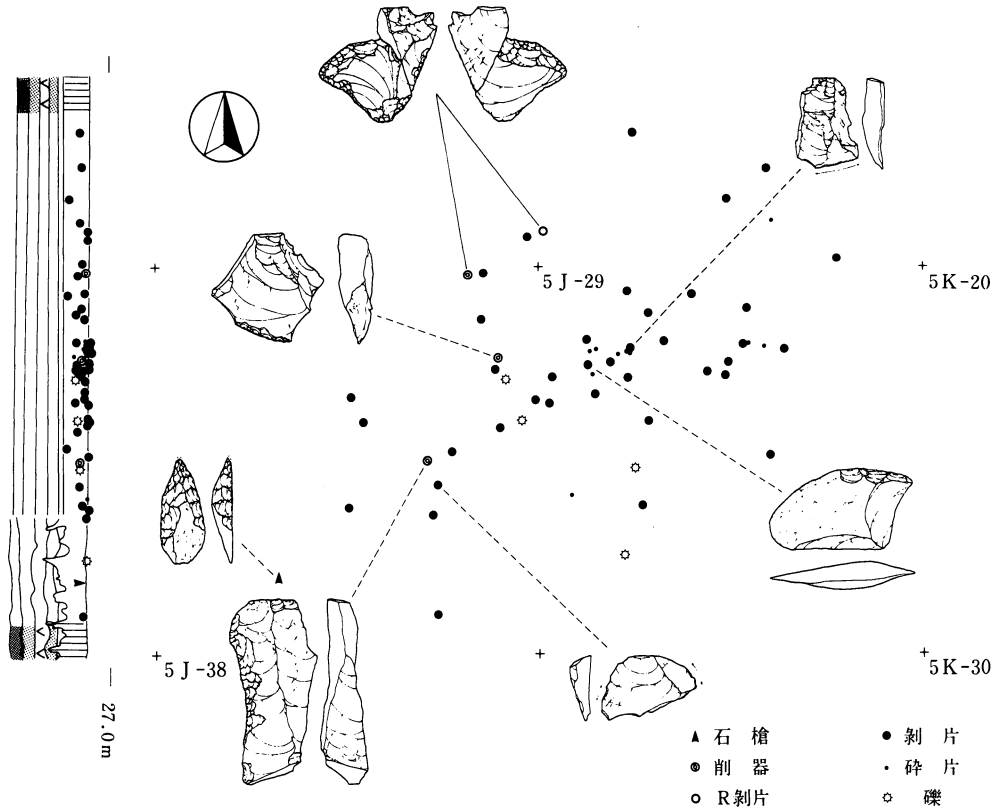
## 5 第18ブロック

**出土状況** 5 J-29区を中心に検出されたブロックである。分布範囲は南北6.8m、東西10.1mを測る。総遺物点数は59点。分布密度の極端な偏在はないが、概ね中央部に集中する傾向があると言え、東西に長い全体の分布範囲に対応するかのように、集中部もやや東西に延びている。器種ごとの分布も特徴的な点はないが、石槍はブロックの南西端で出土した。当ブロックも全点がIII層中から出土しており、出土レベルの高低差は0.4m程であった。

**母岩別資料の分布** 他のブロックと共有される個体は珪質頁岩29のみである。これは計15点の遺物が存在し、ブロックの中央部付近に分布している。珪質頁岩29は第17ブロックで1点、第16ブロックで11点の遺物があり、とくに当ブロックと第16ブロックとの関係が指摘される。他にややまとまりを持った個体としては安山岩10、チャート23、24がある。いずれも偏在することなく分散的に分布するが、大半が剥片で石核を含まず、ブロック内で母岩消費が行われたのではないと思われる。

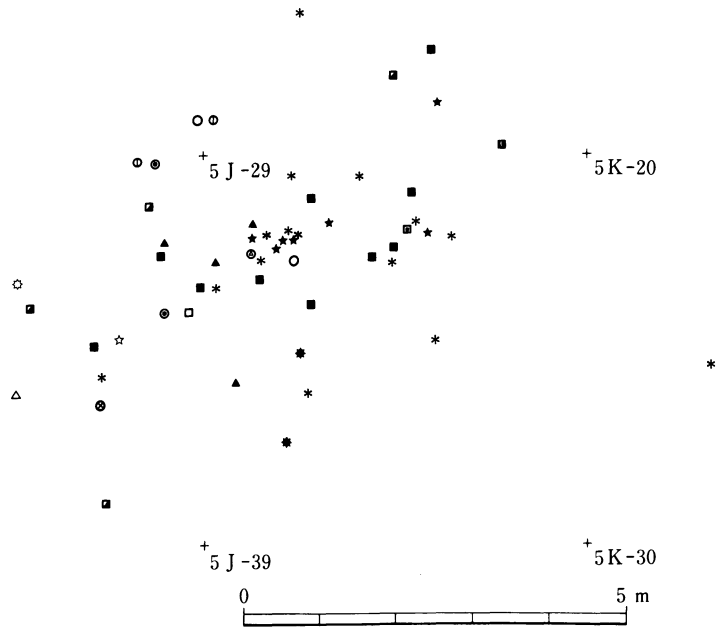
**出土遺物** 8点を図示する。1は安山岩10の小型、涙滴状を呈する片面加工の石槍である。背面の一部に礫皮面を残し、尖頭部側に細かく丁寧な調整が施されている。断面はカマボコ形で右側縁の調整はやや急斜。先端をわずかに欠損する。2はチャート29の削器である。幅広の剥片を用い、3面を折断して矩形に近い形状としてその一縁、末端側に連続的な調整を加えている。3はチャート24の大ぶりの縦長剥片を用いる削器である。かなり厚みの大きな石器であるが、薄い左側縁の大半に連続的な調整を加えて刃部としている。4は珪質頁岩38の接合資料ではあるが、打点直下で2つに折れており、剥片剥離時の加撃の際に同時に割れたものと推測される。そのうち4aは頭部側の背腹両面に調整を施して整形しており、末端側のほとんどに比較的細かい連続的な調整を加えて削器としているものである。4bは本来的に整った二等辺三角形を呈するが、より鋭利な背面右側縁に平坦な二次剥離が認められる。これも削器として用いられたか、あるいは尖頭器としての機能も考慮する必要があるだろうか。5と6は珪質頁岩29の剥片である。5は横長剥片の左右側縁の一部に、6は縦長剥片の末端に使用痕と見られる微



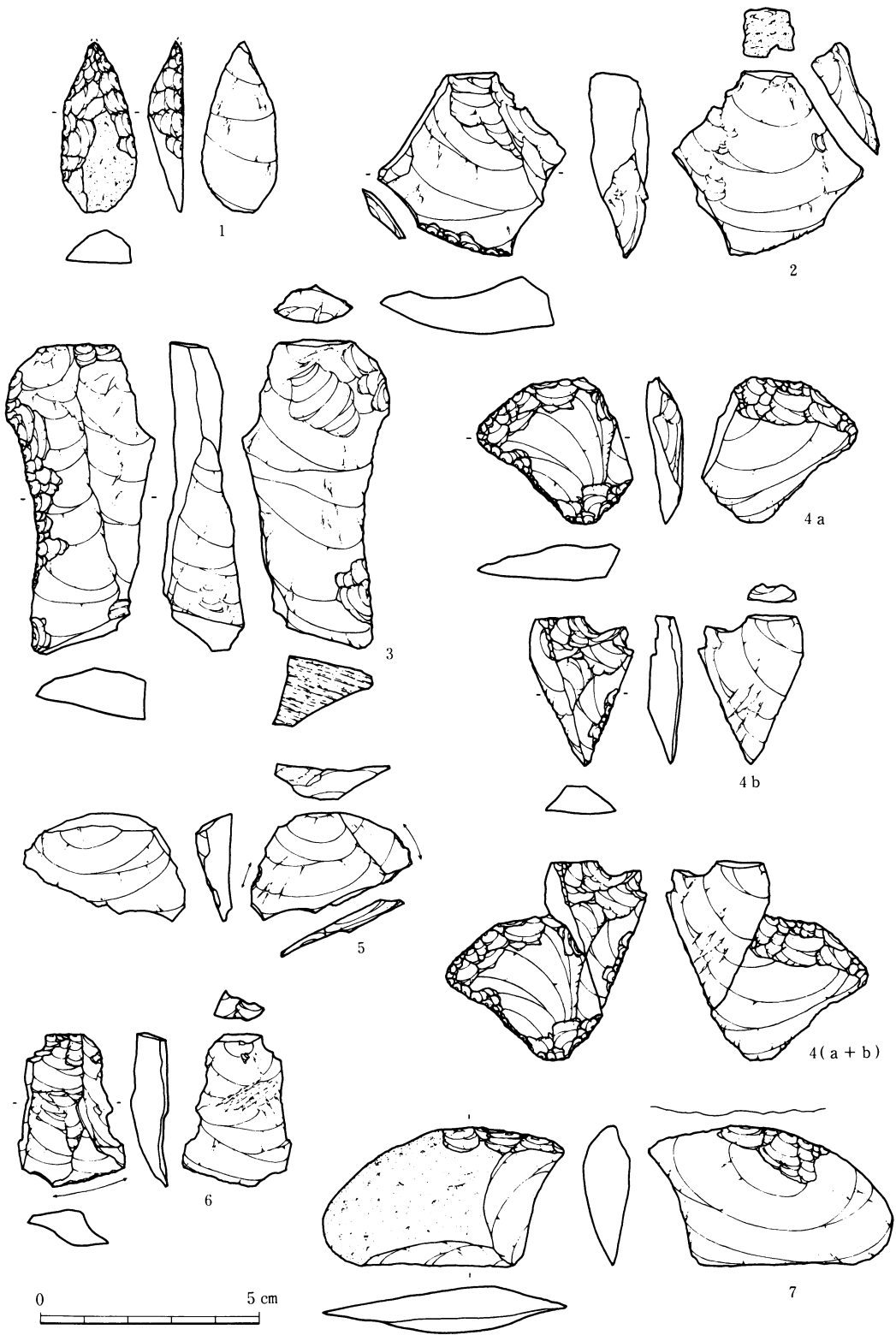


(母岩別分布)

- \* 珪質頁岩29
- ⊙ 珪質頁岩38
- ⊙ 珪質頁岩39
- ☆ 珪質頁岩40
- \* チャート23
- チャート24
- チャート25
- ◇ チャート26
- ◆ チャート27
- △ チャート28
- ▲ チャート29
- チャート30
- ▣ チャート31
- 安山岩 10
- 安山岩 11
- ⊙ 安山岩 12



第19図 第18ブロック遺物分布 (1/100)



第20図 第18ブロック出土遺物 (2/3)

細剥離痕が観察される。7は安山岩11の剥片である。頭部にのみ背腹両面に垂直方向の加撃による剥離面が認められ、第16ブロック48と同様のものと言える。したがってR剥片とするのがむしろ正しいかもしれないが、その性格は判然としない。

## 6 小 結

これまで第2文化層で検出された個々のブロックについて述べてきた。ここで第15ブロック～第18ブロック相互の関係についてまとめておきたい。

複数のブロック間に共有される母岩番号を列挙すれば、珪質頁岩1、2、7、9、12、13、21、29、砂岩2、黒曜石1、瑪瑙2、チャート23の12個体となる。第15ブロックと第16ブロックの間に共有されるものは、珪質頁岩では1、2、他は砂岩2、黒曜石1、瑪瑙2がある。珪質頁岩の2個体については、第15ブロックではともにわずか1点ずつであり、両ブロックの関係を明断することはできない。しかし砂岩以下の3個体については、いずれも1～3点という少量ずつの分布ながら、第16ブロック側ではすべてクラスターcに集中し、第15ブロックと第16ブロッククラスターcの密接な関係を想定することもできる。次に第16ブロックと第17ブロックの間に共有されるものは、珪質頁岩2を除く珪質頁岩7個体である。これらは第16ブロックにまとまった量があるものを含むのに対し、第17ブロック側は量的に零細である。しかし複数の分布をもつものがあり、しかも珪質頁岩1については石核が出土している。第16ブロック側はすべてクラスターbに分布（一部クラスターdにも分布する）を持ち、第17ブロックと第16ブロックは関係を有する可能性は高い。第18ブロックと他のブロックの共有個体には珪質頁岩29とチャート23があり、前者は第16ブロックに11点、第17ブロックに1点、第18ブロックに15点が、後者は第17ブロックに1点、第18ブロックに7点の分布を見る。いずれも石核や接合資料を持たないので何とも言えないが、単位集団間の母岩の分割・譲渡が行われているか、あるいは同一単位集団が2か所において母岩消費を行ったかという両者の可能性が考えられる。しかし以上のような事実を以てしても、ブロック群全体の構成は不分明であると言わざるをえない。ただもう一点重要な鍵となるのは、ブロックごとの出土石器群の内容の相違である。最大の第16ブロックには複数種のナイフ形石器が多数含まれ、他に刃器やノッチドスクレーパーなどを持つ。ただし第16ブロックのクラスターcにはナイフ形石器がなく楔形石器が集中している。また第15ブロックはナイフ形石器よりも石槍が目立つし、第18ブロックは削器の保有が目立つブロックである。このようにそれぞれの空間（ブロック）における労働内容が異なっていたことは想定しうる。ブロック相互に共有母岩があることからこれらのブロック群が同一集団によって遺された可能性があるとするれば、大規模な第16ブロックが集団全体の共通の空間であり、他のブロックが各単位集団をあらわすとの想定も不可能ではない。しかしそうは単純に言い切れない側面もまた充分であって、無理な解釈はここでは謹んでおくべきであろう。

第3表 第15ブロック出土遺物計測表

挿図 番号	遺物番号	器 種	材質・母岩	最大長 mm	最大幅 mm	最大厚 mm	重量 g	打角 剥離角	調整角	使用痕 の有無	折れ面 の有無	欠損 の有無		
1	4 J-43-1	剥 石 礫	珪質真岩 1	15.8	16.4	4.1	1.10	82	50~88 34~48			+		
	4 J-43-2		黒曜石 2	8.7	11.0	3.8	0.25							
	4 J-52-1		流紋岩 1	48.0	64.3	14.4	46.97							
11	4 J-52-2	剥 石 礫	瑪瑙 2	16.8	8.5	2.8	0.38			96	78~94	+	+	
	4 J-53-1	剥 石 礫	チャート 1	13.3	17.5	4.5	1.08							
2	4 J-53-2	剥 石 礫	珪質真岩 2	26.6	23.8	5.8	2.94			88				+
	4 J-53-3	剥 石 礫	安山岩 1	57.9	20.1	6.8	8.73							
4	4 J-53-4	ナイフ形石器	珪質真岩 3	32.2	18.6	6.4	3.60			108				+
3	4 J-53-5	剥 石 礫	珪質真岩 4	27.4	26.5	5.9	2.71							
8	4 J-53-6	剥 石 礫	瑪瑙 1	24.8	18.1	9.3	4.21			96		+	+	
	4 J-53-7	剥 石 礫	砂岩 1	46.8	56.0	34.3	51.76							
9	4 J-53-8	剥 石 礫	珪質真岩 5	35.8	21.8	7.6	5.18	34	64~70					
	4 J-53-9	剥 石 礫	チャート 2	24.8	21.3	13.3	4.30							
5	4 J-54-1	剥 石 礫	瑪瑙 1	21.8	8.8	3.8	0.68	96				+		
	4 J-54-2	R 剥 石 礫	チャート 3	23.0	17.6	11.7	3.99							
13	4 J-54-3	剥 石 礫	真岩 1	21.2	19.8	6.1	1.85	88				+		
	4 J-54-4	剥 石 礫	安山岩 3	33.5	32.8	12.2	17.85							
10	4 J-54-5	剥 石 礫	珪質真岩 1	15.0	16.0	5.2	1.12	108				+		
	4 J-54-6	剥 石 礫	真岩 2	33.3	8.6	3.0	0.76							
6	4 J-54-7	剥 石 礫	安山岩 2	28.0	12.3	4.8	1.58	116	78~94			+		
	4 J-54-8	剥 石 礫	真岩 1	21.0	14.5	7.0	1.41							
7	4 J-54-9	削 石 器	黒曜石 1	25.3	20.5	7.5	3.28	88				+		
	4 J-54-10	削 石 器	珪質真岩 6	34.1	28.8	11.8	8.50							
12	4 J-54-11	削 石 器	砂岩 2	32.5	21.5	9.1	5.87	96				+		
	4 J-54-12	削 石 器	凝灰岩 1	18.3	14.5	7.1	2.07							
12	4 J-54-13	削 石 器	瑪瑙 1	16.5	28.8	12.2	3.80	96				+		
	4 J-54-14	削 石 器	黒曜石 1	9.2	20.9	3.6	0.58							
	4 J-54-15	削 石 器	砂岩 3	40.3	21.6	13.3	12.41							
	4 J-54-16	削 石 器	瑪瑙 1	39.3	24.4	19.9	12.27							
	4 J-54-17	削 石 器	瑪瑙 2	21.0	20.3	12.0	4.04							
	4 J-62-1	削 石 器	チャート 2	15.2	5.1	4.0	0.27							

第4表 第15ブロック出土遺物組成表

	石 槍	ナイフ形石器	削 器	楔形石器	R剥片	剥 片	砕 片	礫	計	総重量g
真岩 1	1	1	1	1	1	2			3	4.38
真岩 2					1	1		1	0.76	
珪質真岩 1					1	1		1	51.76	
珪質真岩 2					1	1		1	5.87	
珪質真岩 3					1	1		1	12.41	
珪質真岩 4					1	1		1	1.10	
珪質真岩 5					1	1		1	2.94	
珪質真岩 6					1	1		1	3.60	
砂岩 1									1	2.71
砂岩 2									1	5.18
砂岩 3									1	8.50
凝灰岩 1				1	1	2.07				
安山岩 1	1				1	8.73				
安山岩 2					1	1.58				
安山岩 3					1	17.85				
流紋岩 1					1	46.97				
黒曜石 1			1		1	3.86				
黒曜石 2	1				1	1.10				
瑪瑙 1					1	3	20.96			
瑪瑙 2					2	2	4.42			
チャート 1					1	1	1.08			
チャート 2					1	1	4.57			
チャート 3					1	1	3.99			
合 計	3	1	1	1	4	17	1	3	31	216.39
千分率%	97	32	32	32	129	548	32	97	999	

第5表 第16ブロック出土遺物計測表1

挿図 番号	遺物番号	器 種	石質・母岩	最大長 mm	最大幅 mm	最大厚 mm	重 量 g	打 角 剝離角	調整角	使用痕 の有無	折れ面 の有無	欠 損 の有無
38	4 J-46-1	剝片	安山岩 4	15.4	22.0	6.1	1.98	110				
	4 J-46-2	剝片	珪質頁岩 30	11.6	16.3	3.0	0.45	104		+		
	4 J-46-3	剝片	安山岩 4	23.9	21.9	6.0	3.00	108				
	4 J-46-4	剝片	安山岩 4	39.7	39.2	14.2	24.17	110				
1	4 J-46-5	礫	流紋岩 2	48.1	35.5	22.3	33.25			被熱痕		
	チャート 4		60.1	16.7	6.5	7.04					+	
41	4 J-46-6	石	流紋岩 2	63.9	49.1	23.1	76.59			被熱痕		
	安山岩 4		29.0	38.3	8.8	7.95	125			+		
	4 J-46-8	礫	安山岩 4	24.2	19.5	13.7	10.84	128				
	4 J-46-9		安山岩 4	24.2	19.5	13.7	10.84	128				
54	4 J-46-10	極石	ホルンフェルス 1	35.6	27.2	9.3	8.95					
	4 J-55-1		黒曜石 1	12.8	9.0	4.2	0.48			+		
13	4 J-55-2	ナイフ形石器	凝灰岩 4	19.4	9.2	3.9	0.68	76				
	4 J-55-3		チャート 20	25.8	13.9	3.9	1.13	96	70~82			
39	4 J-55-4	剝片	凝灰岩 3	42.8	46.2	7.5	13.60	116		+		
33	4 J-55-5	剝片	珪質頁岩 2	26.7	20.9	3.9	0.99	92		+	+	
	4 J-55-6	剝片	珪質頁岩 13	15.9	20.2	3.8	1.05	108				
34	4 J-55-7	剝片	珪質頁岩 2	12.9	13.3	2.8	0.52	94				+
	4 J-56-1	剝片	珪質頁岩 2	19.0	26.2	5.4	2.80					+
	4 J-56-2	剝片	珪質頁岩 29	6.3	10.4	2.4	0.83					+
	4 J-56-3	剝片	珪質頁岩 1	16.0	13.6	5.5	0.98					+
	4 J-56-4	剝片	珪質頁岩 1	13.6	14.4	4.9	0.75					+
	4 J-56-5	剝片	珪質頁岩 29	11.5	7.9	1.5	0.17					+
	4 J-56-6	剝片	珪質頁岩 26	25.4	16.6	2.9	0.87			+		
	4 J-56-7	剝片	珪質凝灰岩 2	15.1	19.2	3.3	0.68					+
	4 J-56-8	剝片	珪質頁岩 29	4.6	12.1	1.0	0.05					+
	4 J-56-9	剝片	珪質凝灰岩 3	14.2	14.9	4.2	0.51					+
	4 J-56-10	剝片	珪質凝灰岩 3	31.1	12.7	4.4	1.22	106			+	
	46	4 J-56-11	剝片	珪質頁岩 2	8.5	14.0	1.6	0.24				
4 J-56-12		剝片	凝灰岩 3	17.6	5.7	4.5	0.20					
20	4 J-57-1	剝片	凝灰岩 2	43.2	11.1	9.4	2.86	102				
43	4 J-57-2	R 剝片	珪質頁岩 8	37.8	18.9	5.2	2.57	96	46~66			
	4 J-57-3	剝片	珪質頁岩 16	31.1	30.5	7.4	8.53	104		+		
24b	4 J-64-1	剝片	珪質頁岩 28	40.3	21.6	8.6	6.27	98				
	4 J-64-2	剝片	珪質頁岩 8	21.3	16.4	6.5	1.42					
	4 J-65-1	剝片	珪質頁岩 2	22.0	11.8	2.8	0.55					
	4 J-65-2	剝片	珪質頁岩 10	56.1	35.0	14.1	17.47	92				
	4 J-65-3	剝片	珪質頁岩 2	28.1	16.9	3.0	1.00					
12	4 J-65-4	剝片	珪質頁岩 2	19.0	14.2	2.3	0.67	78				+
	4 J-65-5	ナイフ形石器	珪質頁岩 26	27.3	25.2	15.6	3.82	100	70~88	+		
25	4 J-65-6	剝片	チャート 10	15.4	20.0	2.4	0.58					
	4 J-65-7	剝片	珪質頁岩 14	29.2	17.1	5.1	1.58	92				
	4 J-65-8	剝片	チャート 9	12.9	22.8	6.7	1.78					+
	4 J-65-9	R 剝片	珪質頁岩 19	24.2	17.1	6.0	2.01	66				+
8	4 J-65-10	剝片	珪質頁岩 7	15.7	16.5	3.2	0.55					+
	4 J-65-11	ナイフ形石器	珪質頁岩 14	45.0	23.1	7.0	5.93	82~88			?	?
31	4 J-65-12	剝片	珪質頁岩 13	22.3	16.8	2.9	0.79	78				+
	4 J-65-13	剝片	珪質頁岩 7	21.3	20.4	4.0	1.58	84				+
18	4 J-65-14	剝片	チャート 11	53.0	28.8	5.5	6.13	98				+
21	4 J-65-15	R 剝片	チャート 12	57.6	21.7	7.0	7.43	106	66~68			+
19	4 J-65-16	R 剝片	珪質頁岩 1	33.1	28.8	10.8	7.13	48				+
	4 J-65-17	R 剝片	珪質頁岩 2	33.3	20.0	9.7	2.79	82				+
56	4 J-65-18	剝片	珪質頁岩 2	17.0	17.6	3.8	0.93					
	4 J-65-19	石核	珪質頁岩 11	50.0	38.5	23.6	44.06					
52	4 J-65-20	剝片	チャート 10	20.9	9.0	3.9	0.63					
	4 J-65-21	剝片	珪質頁岩 20	37.5	23.9	9.5	6.84	82				
	4 J-65-22	剝片	珪質頁岩 7	26.8	18.9	4.8	1.31					
	4 J-65-23	剝片	珪質頁岩 11	46.3	23.8	10.0	7.05	86				
45a	4 J-65-24	剝片	珪質頁岩 13	11.4	16.1	5.8	1.01					+
	4 J-65-25	剝片	珪質頁岩 13	18.5	20.5	10.5	2.55					+
40	4 J-66-1	剝片	頁岩 3	25.5	14.9	5.5	2.61					+
	4 J-66-2	剝片	珪質凝灰岩 3	41.5	20.8	5.4	3.28	86		+		
	4 J-66-3	剝片	珪質凝灰岩 3	35.5	32.8	16.5	12.71			+		+
	4 J-66-4	剝片	珪質頁岩 1	17.8	20.5	3.8	1.02					
	4 J-66-5	剝片	珪質頁岩 29	21.1	14.3	2.8	0.81					
	4 J-66-6	剝片	珪質頁岩 9	16.6	16.6	5.4	1.04					+
	4 J-66-7	剝片	珪質頁岩 14	20.4	10.9	5.1	0.99					
	4 J-66-8	剝片	珪質頁岩 29	11.5	15.8	1.4	0.24					+

第6表 第16ブロック出土遺物計測表2

挿図 番号	遺物番号	器 種	石質・母岩	最大長 mm	最大幅 mm	最大厚 mm	重 量 g	打角 剥離角	調整角	使用痕 の有無	折れ面 の有無	欠損 の有無
45b 51	4 J-66-9	砕片	珧質真岩29	5.9	10.3	2.5	0.10					
	4 J-66-10	剥片	珧質真岩10	23.5	20.0	4.3	1.44	88				
	4 J-66-11	剥片	珧質真岩29	13.4	8.7	4.5	0.57					
	4 J-66-12	剥片	珧質凝灰岩3	19.4	19.9	3.6	0.79	90				
	4 J-66-13	剥片	珧質真岩1	25.8	18.1	4.8	1.57					
30	4 J-66-14	剥片	珧質真岩9	10.8	11.4	2.0	0.17					
	4 J-66-15	剥片	珧質凝灰岩3	22.0	10.8	4.3	0.91	86			+	
11	4 J-66-16	剥片	珧質凝灰岩1	32.9	15.1	3.3	1.41			+	+	
	4 J-66-17	ナイフ形石器	珧質真岩21	26.0	16.5	3.8	1.89	94	68-90	+		
36 48	4 J-66-18	剥片	珧質真岩1	24.7	9.1	4.1	0.62					
	4 J-66-19	剥片	珧質真岩12	18.9	43.1	25.5	16.03	135				
	4 J-66-20	剥片	チャート8	23.9	29.0	16.2	8.06					
	4 J-66-21	剥片	珧質真岩25	39.6	26.4	9.5	8.25					
	4 J-66-22	剥片	珧質真岩29	19.0	11.2	3.4	0.71	88			+	
15	4 J-66-23	R 剥	珧質真岩31	33.5	13.2	6.7	2.61					
	4 J-66-24	剥片	珧質真岩31	12.9	19.6	3.0	0.63	108				
50	4 J-66-25	削器	珧質真岩30	75.2	30.8	9.7	20.16		40-60	+	?	?
	4 J-66-26	剥片	珧質真岩2	29.9	15.5	5.3	2.51	104				
37	4 J-66-27	剥片	珧質真岩31	19.1	21.5	6.5	1.77	120				
	4 J-66-28	剥片	珧質真岩31	24.0	24.6	6.2	4.31	123				
6	4 J-66-29	ナイフ形石器	珧質凝灰岩2	26.5	13.5	5.9	1.87		68	+		+
42	4 J-66-30	剥片	珧質真岩17	36.6	29.7	7.6	6.40	114		+		
	4 J-66-31	剥片	珧質凝灰岩1	14.3	18.5	3.1	0.64	118			+	
49	4 J-66-32	剥片	真岩3	5.3	3.5	2.8	0.25				+	
	4 J-66-33	剥片	珧質真岩31	10.0	25.5	3.5	0.95	94				
14	4 J-66-34	剥片	珧質真岩1	13.8	19.5	8.1	1.33					
	4 J-66-35	剥片	珧質凝灰岩3	11.5	17.3	1.9	0.29				+	
7	4 J-66-36	砕片	珧質真岩7	9.4	5.6	1.4	0.10					
	4 J-66-37	剥片	珧質真岩29	11.3	5.9	3.0	0.18					
4	4 J-66-38	剥片	珧質真岩31	21.8	19.8	5.3	1.02					
	4 J-67-1	剥片	珧質真岩31	23.5	22.0	5.2	2.21					
14	4 J-67-2	ナイフ形石器	珧質真岩32	32.2	19.1	7.1	5.53		70-106			+
	4 J-67-4	剥片	安山岩5	28.6	39.4	8.8	10.23	110				
7	4 J-75-1	剥片	チャート6	18.4	11.0	4.1	0.60	68				
	4 J-75-2	礫	砂岩6	59.3	44.7	25.8	53.86			被熱痕		
53	4 J-75-3	剥片	チャート17	17.3	24.5	7.4	2.49					
	4 J-75-4	剥片	珧質真岩18	9.1	18.2	5.1	0.86	106				
3	4 J-75-5	砕片	黒曜石3	11.2	7.1	2.8	0.21					
	4 J-75-6	剥片	チャート15	26.6	18.6	9.5	3.92					
7	4 J-75-7	剥片	チャート6	26.2	12.8	5.0	1.65					
	4 J-75-8	剥片	ホルンフェルス2	14.4	10.3	2.5	0.32					
4	4 J-75-9	ナイフ形石器	凝灰岩4	26.4	11.1	4.5	0.98	108	84-88			
	4 J-75-10	剥片	チャート19	22.5	21.9	6.5	0.60				+	
53	4 J-75-11	剥片	珧質真岩10	21.4	20.1	5.5	2.45	96				
	4 J-75-12	剥片	珧質真岩2	15.2	17.7	5.8	0.31					
24a	4 J-76-1a	ナイフ形石器	珧質凝灰岩2	20.9	15.9	3.6	1.41		74-86			+
	4 J-76-1b	剥片	珧質真岩10	8.2	15.9	2.5	0.32				+	
3	4 J-76-2	剥片	珧質真岩10	19.2	27.5	17.2	3.17	110				
	4 J-76-3	剥片	珧質真岩8	53.7	52.6	8.1	11.95	104		+		
16	4 J-76-4	剥片	珧質真岩2	13.1	21.7	2.2	0.52					
	4 J-76-5	剥片	珧質真岩8	28.1	14.0	3.7	1.54	94				
47	4 J-76-6	ナイフ形石器	珧質真岩9	20.6	9.2	5.4	0.99		72-88			
	4 J-76-7	剥片	珧質真岩8	36.8	15.0	15.6	6.38	98				
55	4 J-76-8	R 剥	珧質真岩10	56.1	38.0	14.0	24.70				+	
	4 J-76-9	剥片	珧質真岩2	15.2	10.5	4.3	1.22	86				
10	4 J-76-10	剥片	珧質真岩13	21.1	12.1	2.5	0.79	90				
	4 J-76-12	搔器	チャート14	44.7	22.0	10.7	8.96		82-90			
55	4 J-76-13	剥片	珧質真岩13	15.6	24.6	5.7	1.51	125				
	4 J-76-14	剥片	珧質真岩1	36.9	20.8	8.0	3.67	94				
10	4 J-76-15	剥片	珧質真岩9	30.0	12.6	5.1	1.12				+	
	4 J-76-16	石核	珧質真岩24	26.3	22.5	12.1	5.50	66				
4	4 J-76-17	剥片	珧質真岩2	14.2	11.0	6.0	0.70					
	4 J-76-18	ナイフ形石器	珧質真岩22	27.1	18.0	8.0	2.82		58-100	+	?	?
4	4 J-76-19	剥片	珧質真岩13	10.5	13.9	4.0	0.43					
	4 J-77-1	剥片	珧質真岩10	21.3	20.6	6.4	2.12					
4	4 J-77-2	剥片	珧質真岩9	21.1	20.1	5.5	2.09					

第7表 第16ブロック出土遺物計測表3

挿入 番号	遺物番号	器 種	石質・母岩	最大長 mm	最大幅 mm	最大厚 mm	重量 g	打角 剥離角	調整角	使用痕 の有無	折れ面 の有無	欠損 の有無
35	4 J-84-1	片	黒曜石	1	11.1	7.7	3.8	0.25				
	4 J-85-1	片	チャート	5	22.2	21.8	6.4	2.75				
	4 J-85-2	片	チャート	13	16.7	8.1	4.6	0.59				+
	4 J-85-3	片	流紋岩	3	25.5	28.9	9.0	5.25	86			
	4 J-85-4	片	瑪瑙	2	16.4	6.1	1.7	0.18				
	4 J-85-5	片	安山岩	4	6.7	4.5	2.2	0.06	64			
	4 J-85-6	片	珪質頁岩	10	24.6	15.9	3.5	1.39			+	
	4 J-85-7	片	チャート	6	11.1	7.5	2.1	0.18				
	4 J-85-8	片	黒曜石	3	14.3	6.4	5.7	0.32				
	4 J-85-9	片	珪質頁岩	7	17.8	17.9	4.4	1.05				
	4 J-85-10	片	黒曜石	3	9.6	9.9	3.2	0.26				+
	4 J-85-12	片	珪質頁岩	27	21.8	13.2	7.2	1.54	60			
	4 J-85-13	片	珪質頁岩	15	12.2	18.5	2.5	0.61				
	4 J-85-14	片	チャート	6	16.9	11.2	3.9	0.92				
22	4 J-85-15	片	黒曜石	3	26.5	21.2	8.4	4.11				
	4 J-85-16	R 片	チャート	6	34.2	24.1	5.9	4.53	98			
	4 J-85-17	片	安山岩	7	27.8	35.5	4.6	4.04	98			
	4 J-85-18	片	チャート	6	16.2	19.9	2.8	0.55				
	4 J-85-19	片	砂岩	5	22.2	17.9	10.4	2.67				
	4 J-85-20	片	砂岩	4	30.0	25.9	5.1	3.31	62			
	4 J-85-21	片	安山岩	8	16.9	24.7	5.4	1.74				
	4 J-85-22	片	頁岩	4	14.0	14.3	5.2	0.81				
	4 J-85-23	片	珪質頁岩	29	24.5	22.5	2.9	1.52				
	4 J-85-24	片	頁岩	4	8.1	5.6	3.9	0.18				
23	4 J-85-25	R 片	チャート	6	59.4	22.3	8.8	10.94	98	60	?	?
	4 J-85-48	片	チャート	6	59.4	22.3	8.8	10.94	98	60	?	?
26	4 J-85-26	楔形石器	チャート	5	30.5	26.1	12.8	8.63				
	4 J-85-27	片	砂岩	2	19.4	15.6	7.4	1.33				
	4 J-85-28	片	砂岩	2	41.2	50.5	22.6	48.83				
	4 J-85-29	片	チャート	17	16.9	10.0	4.8	0.68				
28	4 J-85-30	両核石器	黒曜石	1	16.3	8.5	4.5	0.61				
	4 J-85-31	楔形石器	チャート	6	21.4	20.2	5.8	2.44				
29	4 J-85-32	片	珪質頁岩	13	10.6	9.3	2.7	0.23				
	4 J-84-33	片	珪質頁岩	15	20.8	16.8	8.2	2.40				
	4 J-85-34	片	瑪瑙	2	18.2	12.4	4.5	1.07				
	4 J-85-35	片	砂岩	6	40.3	36.4	13.0	15.33				
27	4 J-85-36	片	珪質頁岩	1	10.5	3.3	3.6	0.13				
	4 J-85-37	片	チャート	6	20.7	15.4	6.9	1.87				
	4 J-85-38	片	珪質頁岩	7	16.2	11.0	4.4	0.46				
	4 J-85-39	片	ホルンフェルス	3	18.8	14.8	5.0	0.99				
	4 J-85-40	片	安山岩	9	25.0	21.8	5.8	2.95				
	4 J-85-41	片	安山岩	6	18.5	17.2	5.6	2.20				
	4 J-85-42	片	黒曜石	3	10.0	7.1	2.5	0.17				
	4 J-85-43	片	凝灰岩	5	27.3	24.8	13.5	7.25				
	4 J-85-44	片	黒曜石	3	19.2	13.9	3.5	0.91	82		+	+
	4 J-85-45	片	珪質頁岩	13	9.2	10.3	2.6	0.28				+
5	4 J-85-46	片	ホルンフェルス	4	17.8	19.5	3.7	0.99				
	4 J-85-47	ナイフ形石器	チャート	10	19.8	14.6	2.2	0.66	46~84			+
	4 J-85-49	片	黒曜石	3	14.4	5.7	3.8	0.19				
	4 J-85-50	片	チャート	7	31.8	25.5	11.6	7.33				
	4 J-85-51	片	チャート	18	11.2	14.9	13.5	2.44				
	4 J-85-52	片	黒曜石	3	26.3	13.8	9.9	2.86				
	4 J-87-1	片	珪質頁岩	28	8.8	11.3	3.6	0.31				
	4 J-87-2	片	珪質頁岩	7	9.7	8.2	1.3	0.10				
	4 J-87-3	R 片	珪質頁岩	18	47.5	16.3	9.5	6.17	94	46~68		
	4 J-87-4	片	珪質頁岩	7	10.6	8.8	2.8	0.28				
17	4 J-87-5	片	珪質頁岩	9	11.0	6.1	4.1	0.25				
	4 J-87-6	片	珪質頁岩	9	22.2	14.5	3.5	0.79	98			
	4 J-87-7	片	珪質頁岩	7	16.6	8.8	2.8	0.43				
	4 J-87-8	片	珪質頁岩	9	20.8	17.7	6.4	1.79	94			
	4 J-87-9	ナイフ形石器	珪質頁岩	9	35.8	10.7	4.6	1.98	46~88	+		
	4 J-87-10	片	珪質頁岩	29	10.8	16.9	3.3	0.53				
	4 J-87-11	ナイフ形石器	珪質頁岩	23	31.3	16.0	5.0	2.49	44~90		?	?
	4 J-87-12	片	チャート	16	16.8	8.1	3.9	0.50	94			
	4 J-87-13	片	珪質頁岩	13	17.0	13.5	3.5	0.63				
	4 J-87-14	片	珪質頁岩	1	19.8	20.3	6.0	1.35				+
9	4 J-87-15	片	珪質頁岩	9	17.9	12.6	3.2	0.78	100			+
	4 J-87-16	片	チャート	13	30.3	14.5	11.2	3.70	118			

第8表 第16ブロック出土遺物組成表1

	石楨	ナイフ形石器	削器	搔器	楔形石器	R剥片	剥片	碎片	石核	両極石核	礫	計	総重量g
頁岩 3							2					2	2.86
頁岩 4							1	1				1	0.99
珉質頁岩 1						1	8	1				10	18.55
珉質頁岩 2						1	13					14	15.75
珉質頁岩 7							6	3				9	5.86
珉質頁岩 8						1	4					5	23.86
珉質頁岩 9		2					7	1				10	11.00
珉質頁岩 10						1	7					8	53.06
珉質頁岩 11							1		1			2	51.11
珉質頁岩 12							1					1	16.03
珉質頁岩 13							9	1				10	9.27
珉質頁岩 14		1					2					3	8.50
珉質頁岩 15					1		1					2	3.01
珉質頁岩 16							1					1	8.53
珉質頁岩 17							1					1	6.40
珉質頁岩 18						1	1					2	7.03
珉質頁岩 19						1						1	2.01
珉質頁岩 20							1					1	6.84
珉質頁岩 21		1										1	1.89
珉質頁岩 22		1										1	2.82
珉質頁岩 23		1										1	2.49
珉質頁岩 24									1			1	5.50
珉質頁岩 25							1					1	8.25
珉質頁岩 26		1					1					2	4.69
珉質頁岩 27							1					1	1.54
珉質頁岩 28							1	1				2	6.58
珉質頁岩 29							9	2				11	5.71
珉質頁岩 30			1				1					2	20.61
珉質頁岩 31						1	6					7	13.95
珉質頁岩 32		1										1	5.53
珉質頁岩計		8	1		1	7	83	9	2			111	326.37
砂岩 2							2					2	50.16
砂岩 4							1					1	3.31
砂岩 5											1	1	2.67
砂岩 6							1				1	2	69.19
凝灰岩 2							1					1	2.86
凝灰岩 3							2					2	13.80
凝灰岩 4		1					1					2	1.66
凝灰岩 5							1					1	7.25
珉質凝灰岩 1							2					2	2.05
珉質凝灰岩 2		2					1					3	3.96
珉質凝灰岩 3							7					7	19.71
安山岩 4							5	1				6	48.00
安山岩 5							1					1	10.23
安山岩 6					1							1	2.20
安山岩 7							1					1	4.04
安山岩 8							1					1	1.74
安山岩 9							1					1	2.95
流紋岩 2											2	2	109.84
流紋岩 3							1					1	5.25
黒曜石 1								1		2		3	5.25
黒曜石 3							5	3				8	9.03
瑪瑙 2							1	1				2	1.25
チャート 4	1											1	7.04
チャート 5					1		1					2	11.38
チャート 6					1	2	5	1				9	23.68
チャート 7							1					1	7.33
チャート 8							1					1	8.06



第9表 第16ブロック出土遺物組成表2

	石槍	ナイフ形石器	削器	搔器	楔形石器	R削片	剥片	砕片	石核	両極石核	礫	計	総重量g
チャート9							1					1	1.78
チャート10		1					2					3	1.87
チャート11							1					1	6.13
チャート12						1						1	7.43
チャート13							2					2	4.29
チャート14			1									1	8.96
チャート15							1					1	3.92
チャート16							1					1	0.50
チャート17							2					2	3.17
チャート18							1					1	2.44
チャート19							1					1	0.60
チャート20		1										1	1.13
チャート計	1	2	1		2	3	20	1				30	99.71
ホルンフェルス1							1					1	8.95
ホルンフェルス2							1					1	0.32
ホルンフェルス3							1					1	0.99
ホルンフェルス4							1					1	0.99
合計	1	13	1	1	4	10	145	17	2	2	4	200	817.58
千分率%	5	65	5	5	20	50	725	85	10	10	20	1,000	

第10表 第17ブロック出土遺物計測表

挿図番号	遺物番号	器種	石質・母岩	最大長mm	最大幅mm	最大厚mm	重量g	打角 剝離角	調整角	使用痕の有無	折れ面の有無	欠損の有無
4	4 J-79-1	剥片	珩質頁岩7	14.8	19.3	5.8	1.20	92				
	4 J-88-1	砕片	珩質頁岩7	5.5	9.1	2.5	0.12					
	4 J-88-2	剥片	珩質頁岩33	34.9	33.1	7.9	6.88	125		+		
	4 J-88-3	ナイフ形石器	珩質頁岩34	17.3	6.6	4.6	0.45		52~56			+
	4 J-89-1	R削片	チャート21	64.0	22.8	8.5	8.60		58~62	+	+	
	4 J-89-2	楔形石器	チャート22	40.1	35.7	16.1	20.86					
	4 J-89-3	剥片	珩質頁岩36	32.0	21.5	13.7	6.01					
	4 J-89-4	剥片	珩質頁岩37	23.0	15.1	4.2	1.30					
	4 J-89-5	剥片	珩質頁岩33	22.7	33.3	9.1	4.60	118				
	4 J-89-6	剥片	珩質頁岩12	25.2	15.7	7.3	2.30	94				
	4 J-89-7	剥片	珩質頁岩13	10.1	13.8	4.9	0.45					
8	4 J-89-8	剥片	珩質頁岩37	21.3	11.8	2.9	0.70				+	
	4 J-89-9	石核	珩質頁岩1	40.1	28.8	18.2	23.09	84				
7	4 J-89-10	剥片	珩質頁岩33	30.0	21.7	8.6	4.47				+	
	4 J-89-11	剥片	チャート22	16.7	23.5	13.4	5.25				+	
	4 J-89-12	剥片	珩質頁岩1	22.0	8.6	4.0	0.82	130				
	4 J-98-1	剥片	珩質頁岩9	50.9	17.1	5.8	4.57	98		+		
	4 J-99-1	剥片	珩質頁岩33	36.9	19.6	8.5	3.35			+		
5	4 J-99-2	剥片	チャート22	23.5	28.8	8.4	4.64					
	4 K-70-1	剥片	珩質頁岩21	12.8	18.3	4.5	1.03					
	4 K-80-1	剥片	珩質頁岩35	9.8	13.6	2.2	0.33					
	4 K-80-2	剥片	珩質頁岩29	23.5	18.8	6.3	1.47	96				
	5 J-09-1	剥片	珩質頁岩7	15.8	23.9	4.2	1.49				+	
	5 J-09-2	剥片	チャート23	18.5	21.1	5.2	2.05				+	

第12表 第18ブロック出土遺物計測表

挿図 番号	遺物番号	器 種	石質・母岩	最大長 mm	最大幅 mm	最大厚 mm	重 量 g	打 角 剥離角	調整角	使用痕 の有無	折れ面 の有無	欠 損 の有無			
4 b	5 J-18-1	剥	片	チャート	25	11.5	16.4	5.5	0.89	108					
	5 J-19-1	剥	片	チャート	24	13.8	18.6	2.5	0.58						
	5 J-19-3	砕	片	珪質真岩	23	8.2	9.2	2.6	0.13						
	5 J-19-4	剥	片	安山岩	10	18.4	20.5	2.7	0.81						
	5 J-19-5	剥	片	チャート	24	18.4	23.0	4.8	1.27						
	5 J-19-6	剥	片	珪質真岩	29	25.5	34.7	11.0	7.50						
	5 J-19-7	剥	片	珪質真岩	38	34.3	23.5	7.6	4.44						
	5 J-27-4	剥	片	チャート	24	27.2	17.1	4.6	1.84						
	5 J-28-1	剥	片	珪質真岩	39	28.1	18.3	7.4	2.50						
	5 J-29-2	削	器	珪質真岩	38	32.4	33.6	7.6	7.92						
4 a	5 J-28-3	剥	片	安山岩	10	21.2	22.6	3.7	1.57	44~56					
	5 J-28-4	削	器	チャート	29	42.7	43.7	13.9	19.64						
	5 J-28-5	剥	片	チャート	24	12.7	17.0	4.9	0.58						
	5 J-28-6	剥	片	チャート	26	18.2	21.7	19.1	5.69						
	5 J-28-7	剥	片	チャート	30	18.2	18.0	15.3	3.68						
	5 J-28-8	剥	片	珪質真岩	39	19.7	13.9	5.2	1.05						
	5 J-28-9	剥	片	珪質真岩	40	42.0	54.8	14.0	27.62						
	5 J-28-10	削	器	チャート	24	69.3	33.1	6.8	31.15						
	5 J-28-11	剥	片	珪質真岩	29	23.7	36.8	9.2	5.01						
	5 J-28-12	剥	片	安山岩	12	11.5	15.7	3.3	0.52						
3	5 J-28-13	剥	片	チャート	26	37.4	22.8	13.8	10.02	52~58					
	5 J-28-14	剥	片	安山岩	10	30.0	19.3	4.7	2.01						
	5 J-28-15	剥	片	チャート	28	29.0	29.4	5.5	4.91						
	5 J-28-6	石	槍	安山岩	10	39.8	17.7	7.8	4.56						
	5 J-28-17	剥	片	安山岩	10	24.4	11.9	8.3	1.69				34~88		
	5 J-28-18	剥	片	チャート	24	12.2	12.7	1.5	0.26						
	5 J-29-1	剥	片	チャート	24	30.8	23.7	5.7	2.83						
	5 J-29-2	剥	片	珪質真岩	29	13.7	13.3	5.4	0.91						
	5 J-29-3	砕	片	チャート	23	11.8	5.6	3.0	0.17						
	5 J-29-4a	剥	片	チャート	31	20.0	13.9	2.3	0.62						
5 J-29-4b	砕	片	珪質真岩	29	9.7	7.2	1.5	0.14							
5 J-29-5	剥	片	珪質真岩	29	23.2	15.0	4.4	0.98							
5 J-29-6	剥	片	チャート	24	20.1	16.7	5.3	1.40							
5 J-29-8	剥	片	チャート	23	24.2	25.5	5.1	1.72							
5	5 J-19-9	剥	片	珪質真岩	29	18.9	10.1	2.3	0.45	52~58					
	5 J-29-10	剥	片	チャート	24	17.5	23.1	3.9	1.81						
	5 J-29-12	剥	片	珪質真岩	29	14.1	20.2	5.2	0.92						
	5 J-29-13	剥	片	珪質真岩	29	35.1	24.6	8.2	4.84						
	5 J-29-14	剥	片	チャート	23	17.8	20.3	3.7	1.12						
	5 J-29-15	剥	片	チャート	29	27.5	24.7	8.7	6.78						
	5 J-29-16	剥	片	安山岩	11	31.3	55.3	9.6	15.22						
	5 J-29-17	剥	片	チャート	24	11.0	13.7	1.7	0.22						
	5 J-29-18	剥	片	チャート	25	11.4	16.7	2.8	0.62						
	5 J-29-20	剥	片	チャート	24	10.4	15.5	2.9	0.34						
6	5 J-29-21	剥	片	チャート	27	12.9	11.3	7.7	1.06	86					
	5 J-29-22	砕	片	チャート	29	6.5	10.5	1.2	0.07						
	5 J-29-23	剥	片	チャート	27	19.0	15.4	11.9	3.09						
	5 J-29-24	剥	片	珪質真岩	29	21.0	24.0	5.9	2.45						
	5 J-29-25	剥	片	珪質真岩	29	14.3	26.7	3.5	0.92						
	5 J-29-26	剥	片	チャート	29	40.3	26.2	8.8	7.72						
	5 J-29-27	剥	片	珪質真岩	29	33.9	22.0	6.8	4.04						
	5 J-29-28	剥	片	チャート	24	14.9	16.1	3.2	0.63						
	5 J-29-29	砕	片	珪質真岩	29	9.4	6.7	1.2	0.08						
	5 J-29-30	砕	片	チャート	23	10.8	11.3	2.8	0.28						
7	5 J-29-31a	砕	片	チャート	23	66	9.6	4.1	0.13	86					
	5 J-29-31b	砕	片	珪質真岩	29	11.2	14.0	2.1	0.08						
	5 J-29-32	砕	片	珪質真岩	29	4.4	10.4	2.7	0.21						
	5 J-29-33	砕	片	チャート	23	5.9	2.1	2.5	0.13						
	5 K-20-1	剥	片	珪質真岩	29	14.8	22.4	3.0	0.72						

第11表 第17ブロック出土遺物組成表

	ナイフ形石器	楔形石器	R剥片	剥片	砕片	石核	計	総重量g
珪質頁岩 1				1		1	2	23.91
珪質頁岩 7				2	1		3	2.81
珪質頁岩 9				1			1	4.57
珪質頁岩 12				1			1	2.30
珪質頁岩 13				1			1	0.45
珪質頁岩 21				1			1	1.03
珪質頁岩 29				1			1	1.47
珪質頁岩 33				4			4	19.30
珪質頁岩 34	1						1	0.45
珪質頁岩 35				1			1	0.33
珪質頁岩 36				1			1	6.01
珪質頁岩 37				2			2	2.00
チャート 21			1				1	8.60
チャート 22		1		2			3	30.75
チャート 23				1			1	2.05
合計	1	1	1	19	1	1	24	106.03
千分率%	42	42	42	792	42	42	1,002	

第13表 第18ブロック出土遺物組成表

	石槍	削器	剥片	砕片	礫	計	総重量g
珪質頁岩 29			11	4		15	29.25
珪質頁岩 38		1	1			2	12.36
珪質頁岩 39			2			2	3.55
珪質頁岩 40			1			1	27.62
安山岩 10	1		4			5	10.64
安山岩 11			1			1	15.22
安山岩 12			1			1	0.52
チャート 23			2	5		7	3.68
チャート 24		1	11			12	42.91
チャート 25			2			2	1.48
チャート 26			1		1	2	15.71
チャート 27					2	2	4.15
チャート 28			1			1	4.91
チャート 29		1	2	1		4	34.21
チャート 30					1	1	3.68
チャート 31			1			1	0.62
合計	1	3	41	10	4	59	210.51
千分率%	17	51	695	169	68	1,000	

## V 収 束

本書の刊行を以て、住宅・都市整備公団による佐倉市南志津地区土地区画整理事業地内における埋蔵文化財の調査はすべて完了したことになる。御塚山遺跡第1地点～第6地点及び大林遺跡以下4遺跡の多大な成果は、報告書の第1冊<sup>(1)</sup>で詳細かつ適切にまとめられており、ここであらためて総括することは避ける。ここでは御塚山遺跡第7地点の発掘調査で得られた成果のうち、最も主要な部分を占める第2文化層の出土石器群の様相について簡単にふり返ってみたい。なお若干の問題を残しているものの、第2文化層に属する各ブロックが同時期の所産であることを前提とする。

第2文化層出土石器で、中心となる定型的器種はナイフ形石器である。ナイフ形石器は最も規模の大きいブロックである第16ブロックに集中的に分布していたが、多様な形状のものを含み、単一の器種名で呼称することに問題があると言える。試みにそれらのナイフ形石器を分類すれば、以下ようになる。

**A種** 尖頭部を有するもの。石刃素材で小型、細身。二側縁加工。第12図2、3。

**B種** 石刃素材で、側縁部の一端に加工を加えるもの。第12図6。

**C種** 石刃の一端を折断し、折断面に調整加工を施す「截頂石刃」。第12図7。

**D種** 側縁部の半ばから基部にかけて加工を施すが、基部の加工が非常に入念で、結果的につまみを作り出したような形状のもの。第12図8～12。

**E種** 切出形の刃部をもつもの。第12図13。

これらの分類に該当させることが躊躇されるものもあるが、完形品でないため独立した分類も不能である。上記のナイフ形石器各種のうち最も特徴的なのはD種で、量的にも多い。8、9などは、先述のようにA種の尖頭部が折れたものとも解釈されるが、完形品11、12からすると意図的な折断によって成形されている可能性も強い。

ナイフ形石器以外の器種としては、半両面加工及び片面加工の石槍、削器、搔器、楔形石器がある。彫器は含まれない。石槍は全体の組成からすると僅少であるが、第15ブロックや第18ブロックにおいては目立った存在であり、狩猟具のなかではある程度の比重を持つものと考えられる。またブロックによって狩猟具の主体に差がある点も興味深い。搔器は1点のみであるが、削器には数種がある。第一は第18ブロックで出土している剥片の縁辺に連続的な小剝離を施すもの。第二は尖頭部を持つ第12図15。第三はノッチ状の剝離を加えるもので、第16ブロックで多く出土している。ただし第三種の削器は本文中ではR剥片に含めた。

剥片生産技法についてはどうであろうか。石刃技法の存在は疑いえないが、それは第16ブロックと第17ブロックで見られ、石刃は主として一部のナイフ形石器と刃器及び一部の削器の素材

として供給されている。しかし石器群全体を見ると石刃生産は決して支配的ではなく、一般的な剥片剥離による不定形の剥片がむしろ圧倒的である。

以上のような剥片剥離技術、石器組成、そして出土層準から第2文化層の出土資料はナイフ形石器群終末期に位置することは明らかである。南志津地区では当該期の資料として御塚山遺跡第I文化層、大林遺跡第II文化層、第III文化層出土の石器群がある。時期的に最も古いと考えられる大林遺跡第III文化層、とくに第9地点出土石器群は、報告者である田村隆によっていわゆる「砂川期」に対応する石器群として位置付けられている。今回報告した御塚山遺跡第7地点の石器群は、使用石材の近似性（同一母岩は認められない）と小型の石刃ナイフを含む点においては大林遺跡第III文化層に近い印象があるが、大林遺跡第III文化層は石刃生産主導型であり、その比率においては御塚山遺跡第7地点とは差がある。これをすなわち時間差とすることの危険性もあるが、しかしより新しい時期との関連を想定させる形状の石槍の存在等を併せ見る限り、今回の報告資料はむしろ御塚山遺跡第I文化層（I a期）や大林遺跡第II文化層に近い時期のものとも思われる。ただ勿論既報告の御塚山遺跡第I文化層や大林遺跡第II文化層との直接的関連も認めることはできなかった。石槍とのかかわりについては、さらに新しい段階に位置付けられる四街道市池花遺跡第3文化層<sup>(2)</sup>において、小型石槍を主体とする石器群中に石刃ナイフが少量含まれる点も示唆的な事実と言えよう。

また個別の石器ではナイフ形石器D種の問題がある。これらは、形態から見ると石錐である可能性があるが、錐としての使用痕が認められないのに突出部が非常に鈍く、石錐としての機能を考定することも疑問である。この種の石器を多出した遺跡は、少なくとも筆者の狭い知見の範囲内では、南関東に存在しない。それらの系譜や機能についてはあらためて考察してみたい課題ではある。

いずれにしても今回の御塚山遺跡第7地点の調査は、先土器時代における豊富かつ重層的な資料を提示した南志津地区の調査成果に、さらに新しい知見を付加しえたものとして評価できよう。本書では紙幅の関係で細かな検討はできなかったが、今後のナイフ形石器群終末期の研究において、重要な位置を占める資料になると思われる。

註1 田村隆・他『佐倉市南志津地区埋蔵文化財発掘調査報告書1－佐倉市御塚山・大林・大堀・西野・芋窪遺跡－』（財）千葉県文化財センター 1989

2 渡辺修一『四街道市内黒田遺跡群』（財）千葉県文化財センター 1991

# 抄 録

フリガナ	サクラシマナミシツクマイゾウブンカザイハクツツチョウサホウコクシヨ
書名	佐倉市南志津地区埋蔵文化財発掘調査報告書
副書名	御塚山遺跡第7地点の調査
巻次	第2冊
シリーズ名	千葉県文化財センター調査報告
シリーズ番号	第225集
編著者名	渡辺修一
編集機関	財団法人 千葉県文化財センター
所在地	〒284 千葉県四街道市鹿渡809-2
印刷所	株式会社 ライフ (千葉県成田市東和田595)
印刷年月日	1993年3月24日
発行年月日	1993年3月31日

フリガナ 所収遺跡名	フリガナ 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
御塚山	佐倉市井野町	212	013	35°42'44"	140°8'35"	19911101— 19911225	4,000㎡	区画整理

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
御塚山	包蔵地	先土器	遺物集中 5か所	ナイフ形石器など石器300点	既報告部分と合わせると 遺物集中地点は計18か所

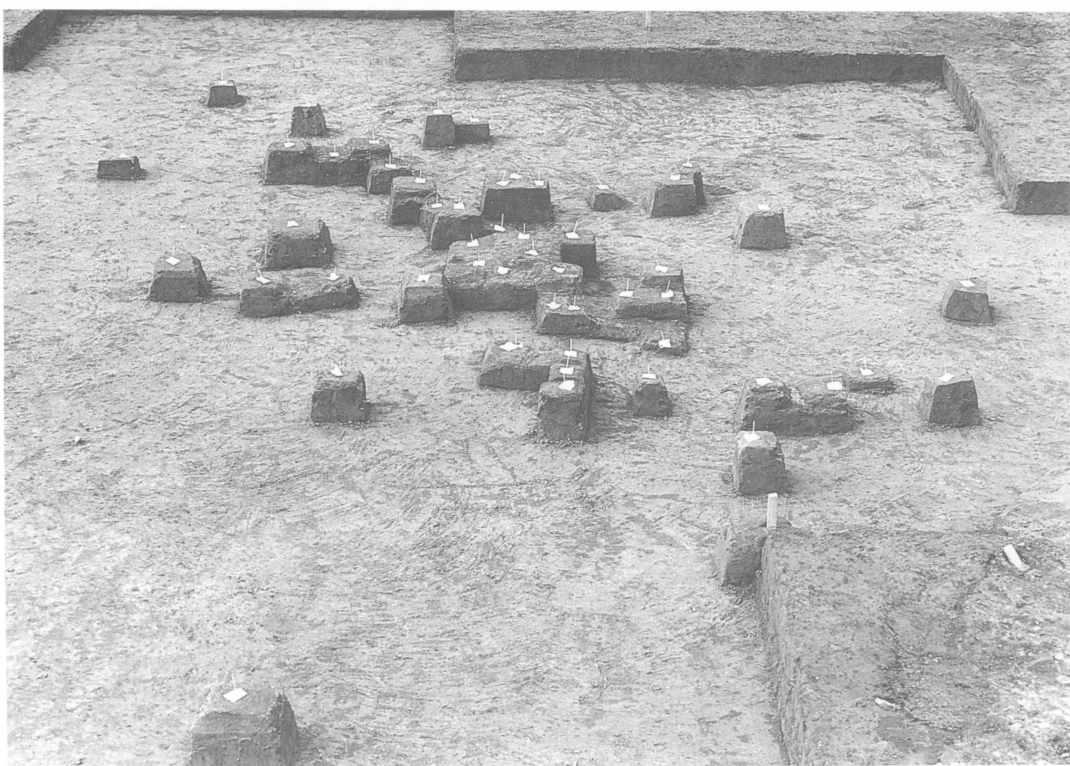
# 写 真 图 版



第14ブロック

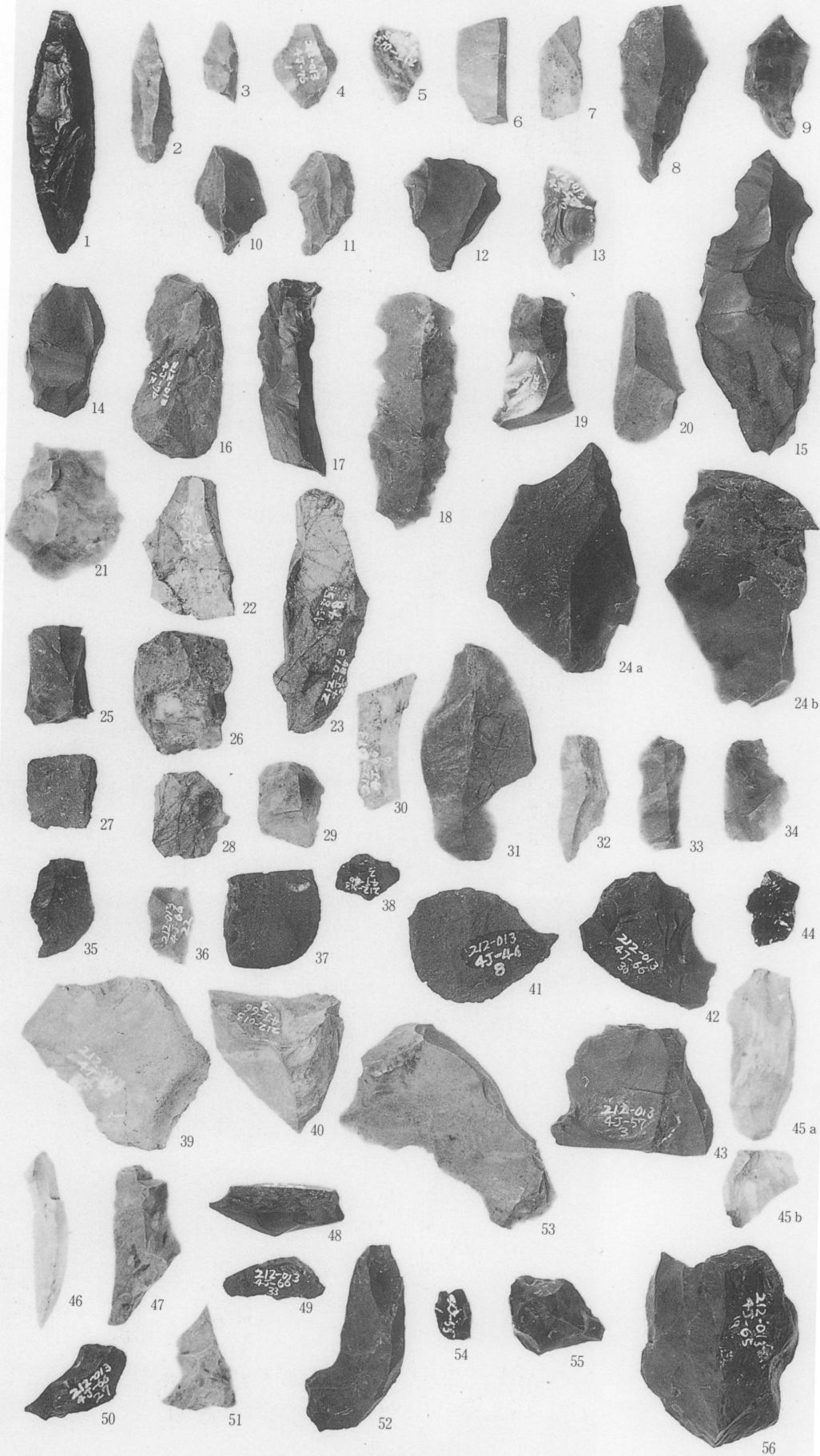


第15ブロック  
第16ブロック  
第17ブロック



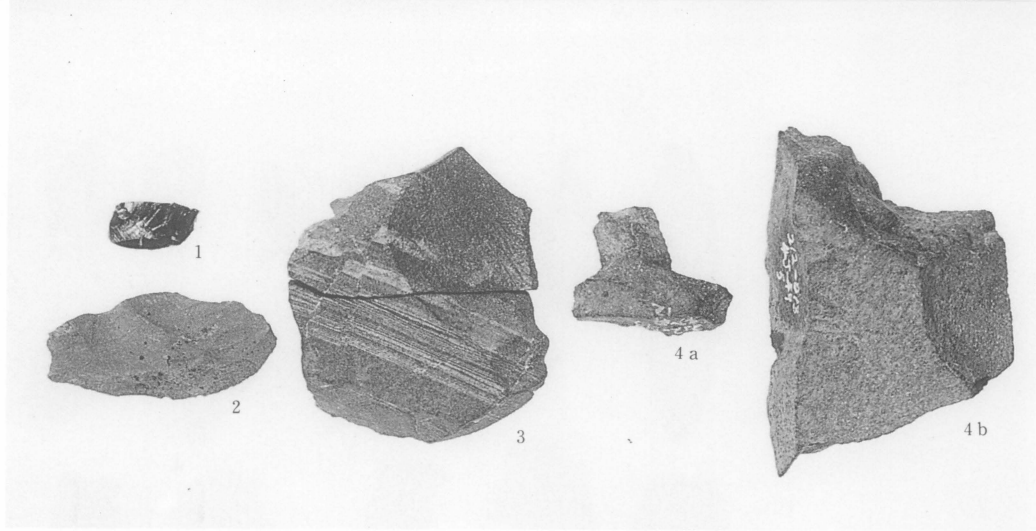
第18ブロック



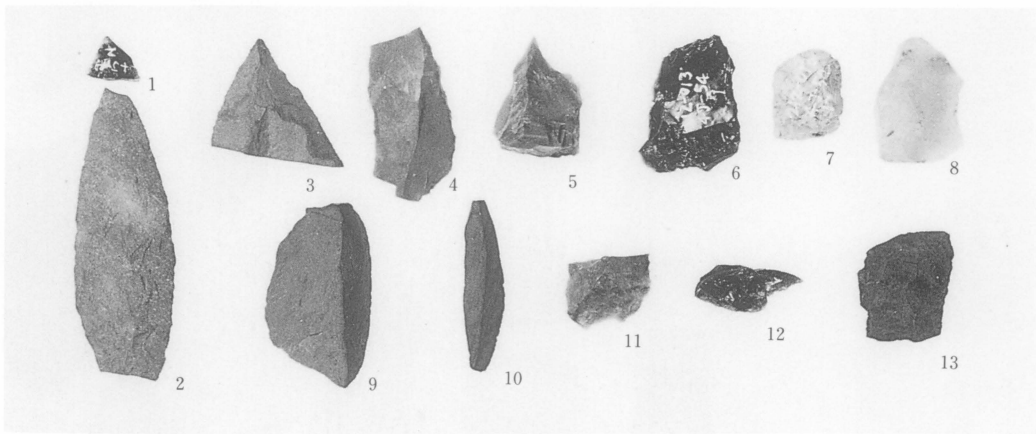


第16ブロック  
出土遺物 1

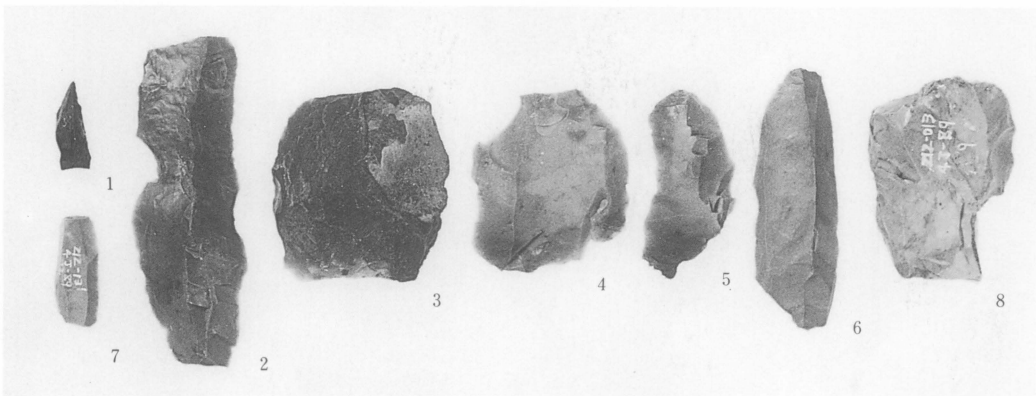




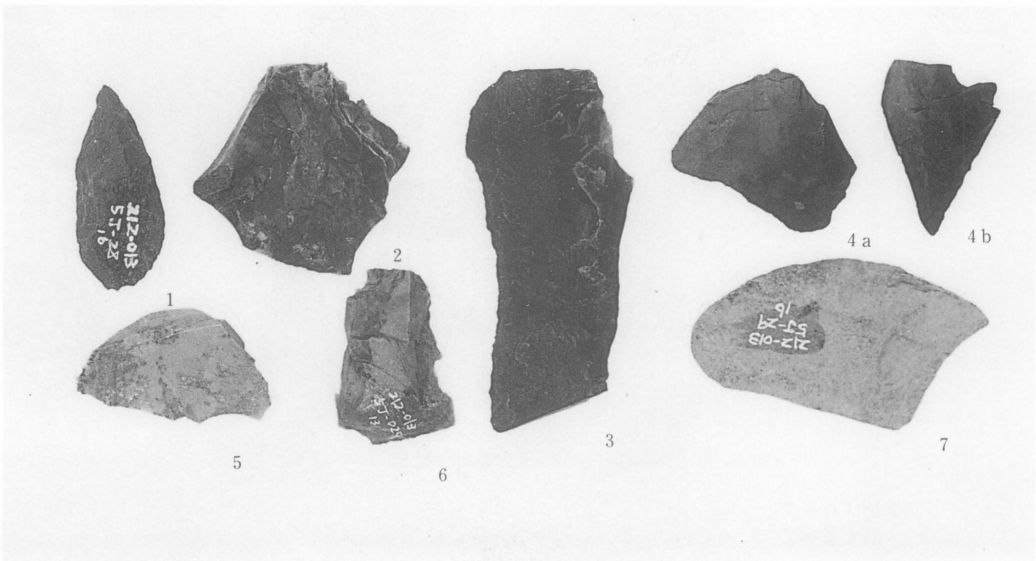
1 第14ブロック  
出土遺物 1



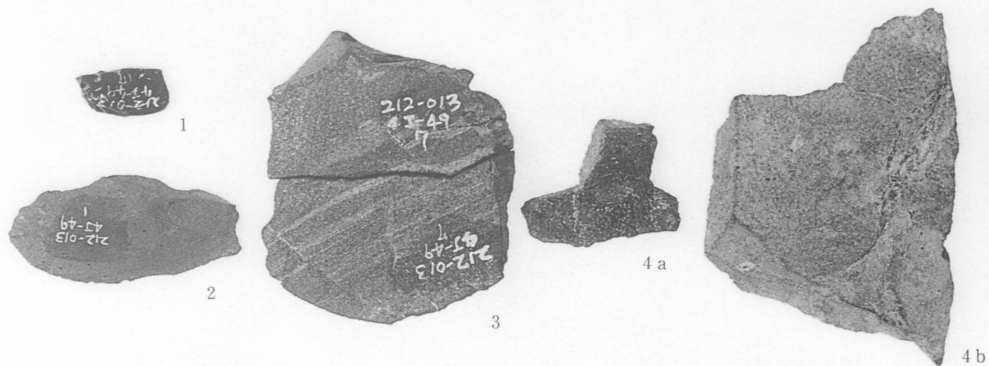
2 第15ブロック  
出土遺物 1



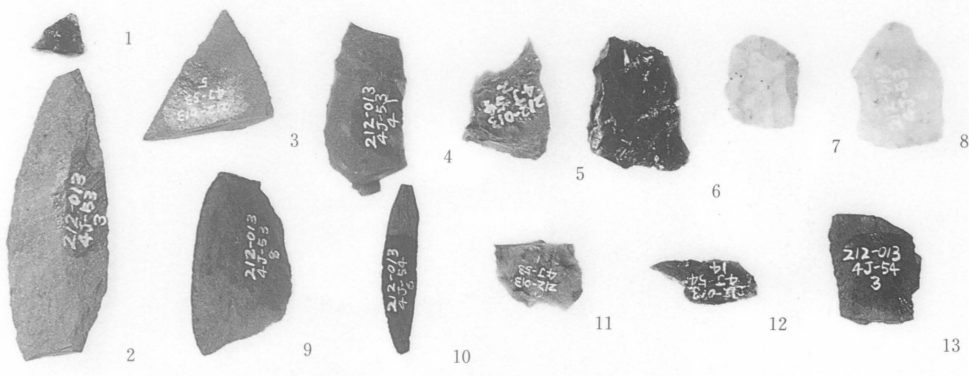
3 第17ブロック  
出土遺物 1



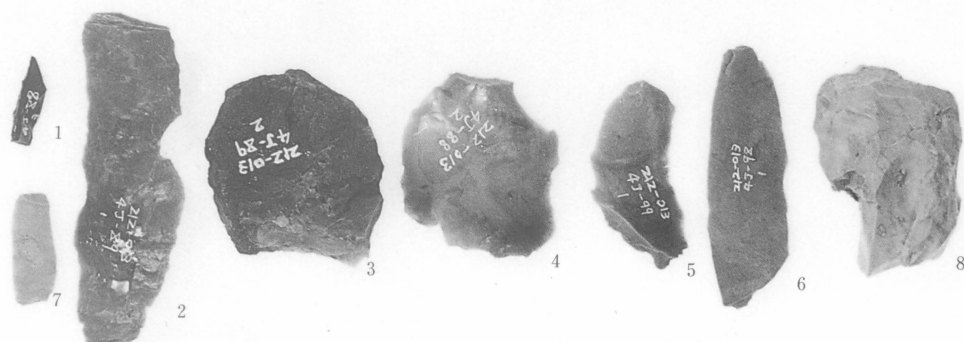
4 第18ブロック  
出土遺物 1



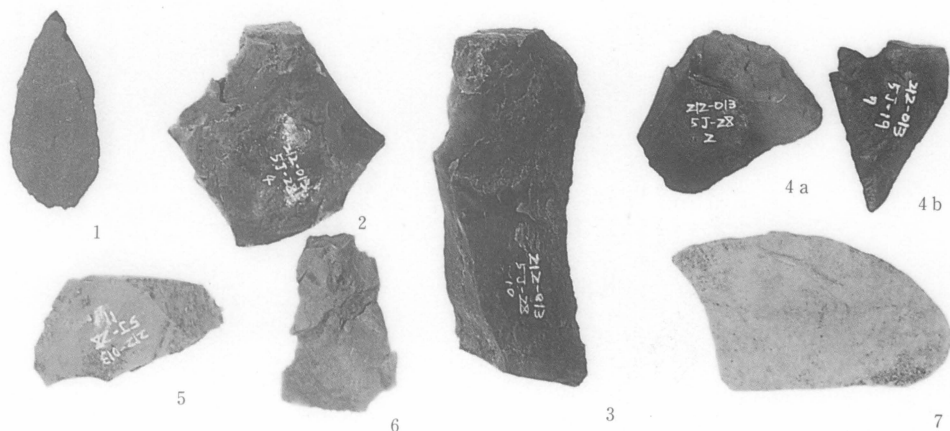
1 第14ブロック  
出土遺物2



2 第15ブロック  
出土遺物2



3 第17ブロック  
出土遺物2



4 第18ブロック  
出土遺物2

---

平成5年3月24日 印刷

平成5年3月31日 発行

千葉県文化財センター調査報告第225集

佐倉市南志津地区埋蔵文化財発掘調査報告書2

発行 住宅・都市整備公団首都圏都市開発本部

東京都新宿区新宿4丁目3番17号

財団法人 千葉県文化財センター

千葉県四街道市鹿渡809-2

印刷 株式会社 ラ イ フ

千葉県成田市東和田595

---